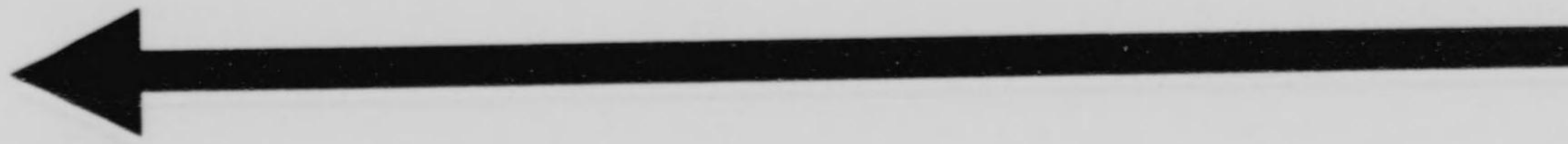


373

198

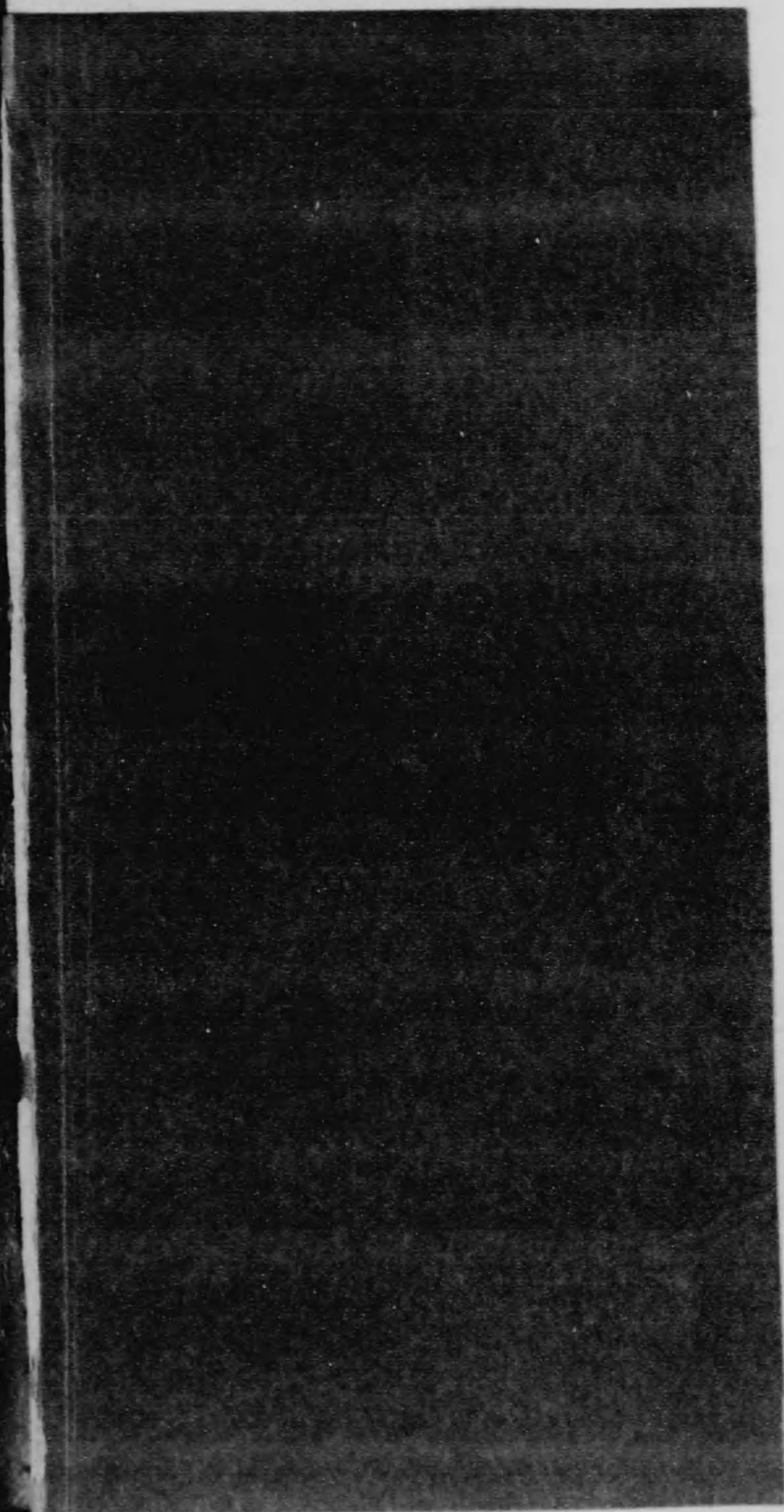
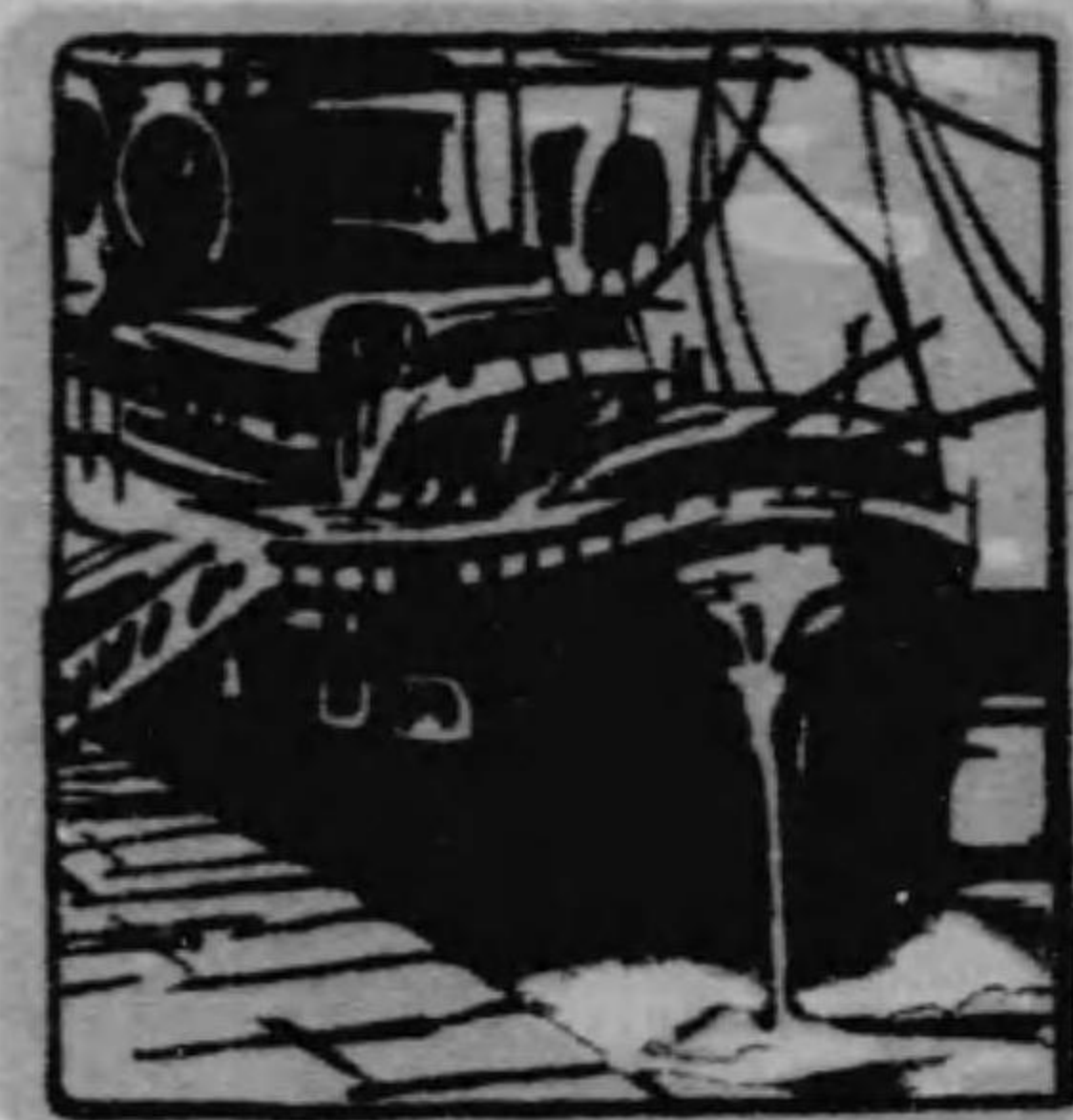
8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10<sup>18m</sup> 1 2 3 4 5

始

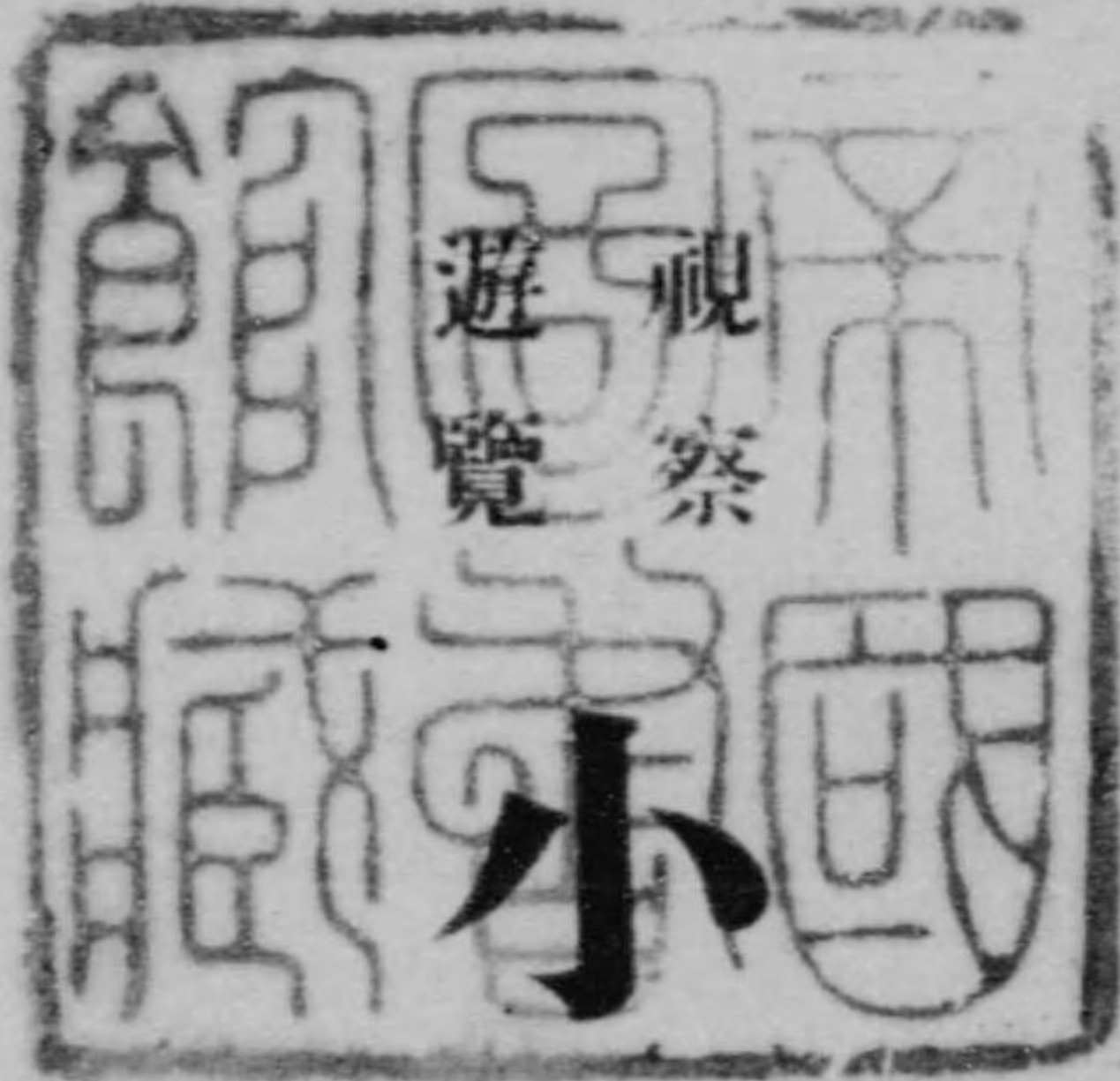


視察  
遊覽

小樽案内



373-198



樽  
案  
內

大正  
7. 8. 17  
內交



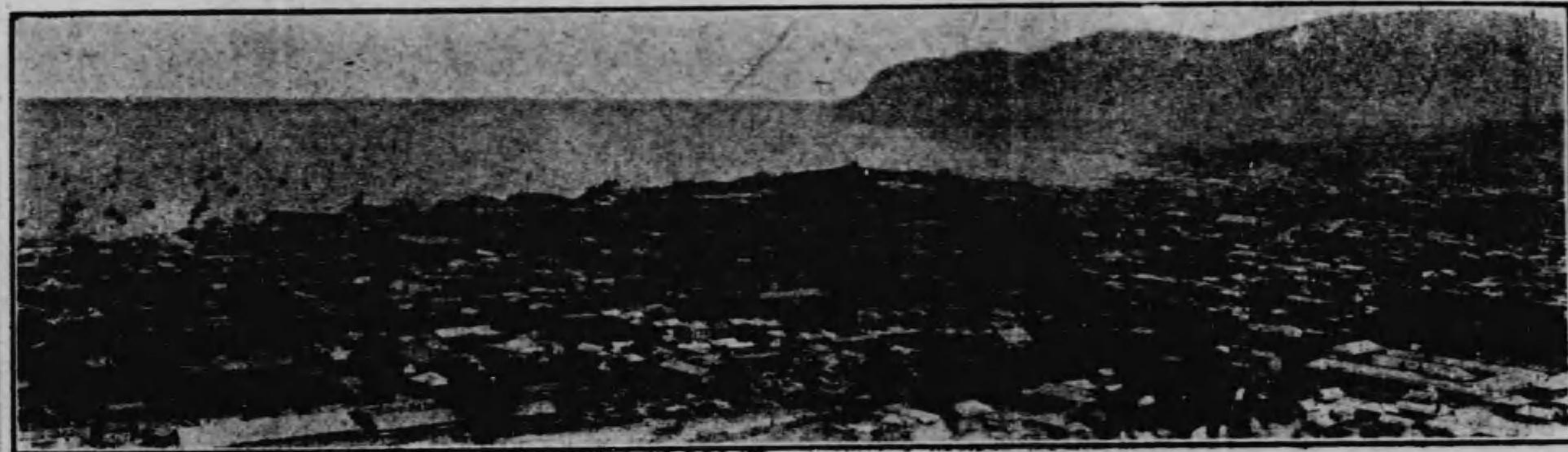
南京城內

# 小樽區

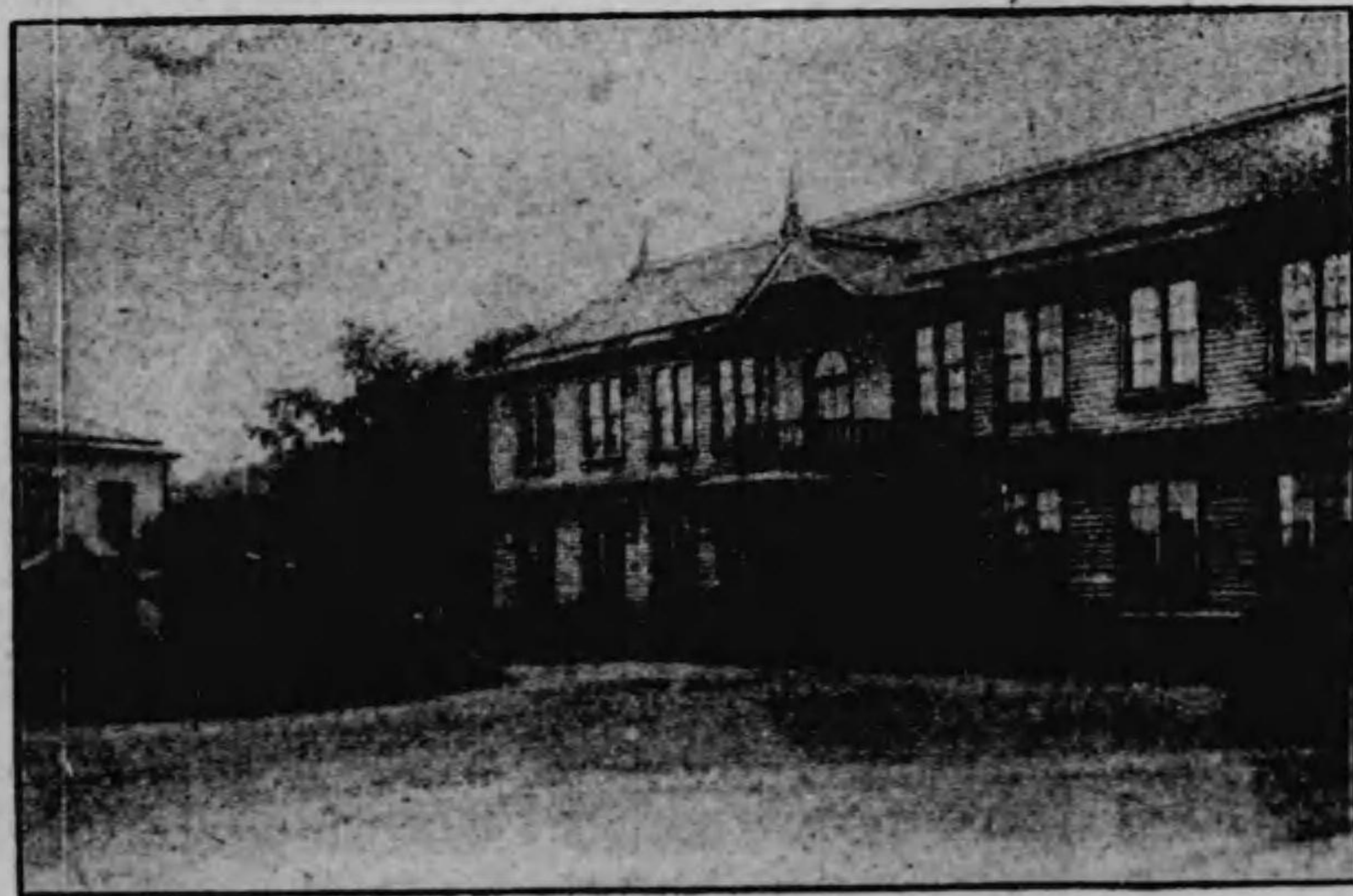


三防防境

小樽區市街全景



日本銀行

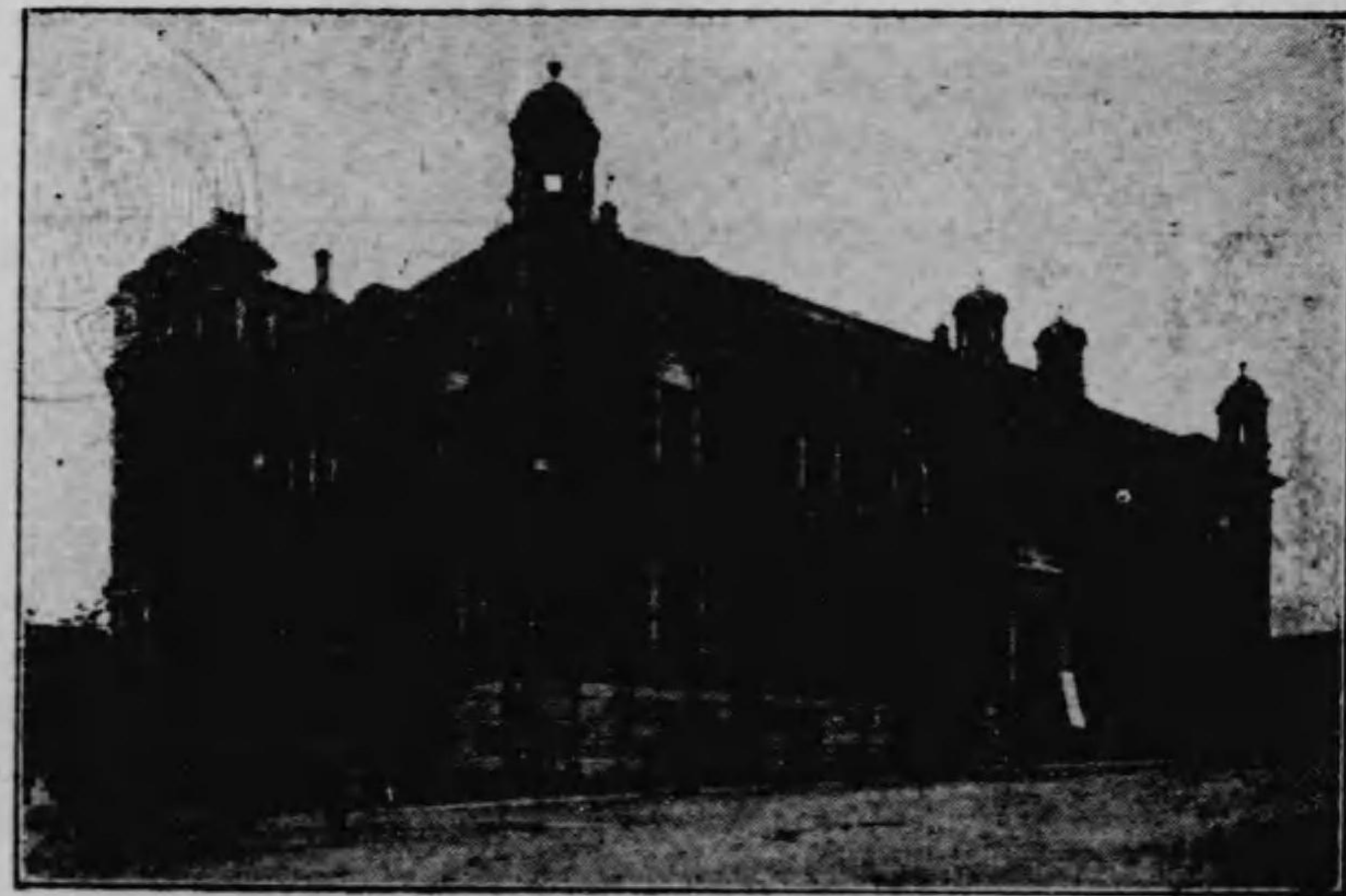
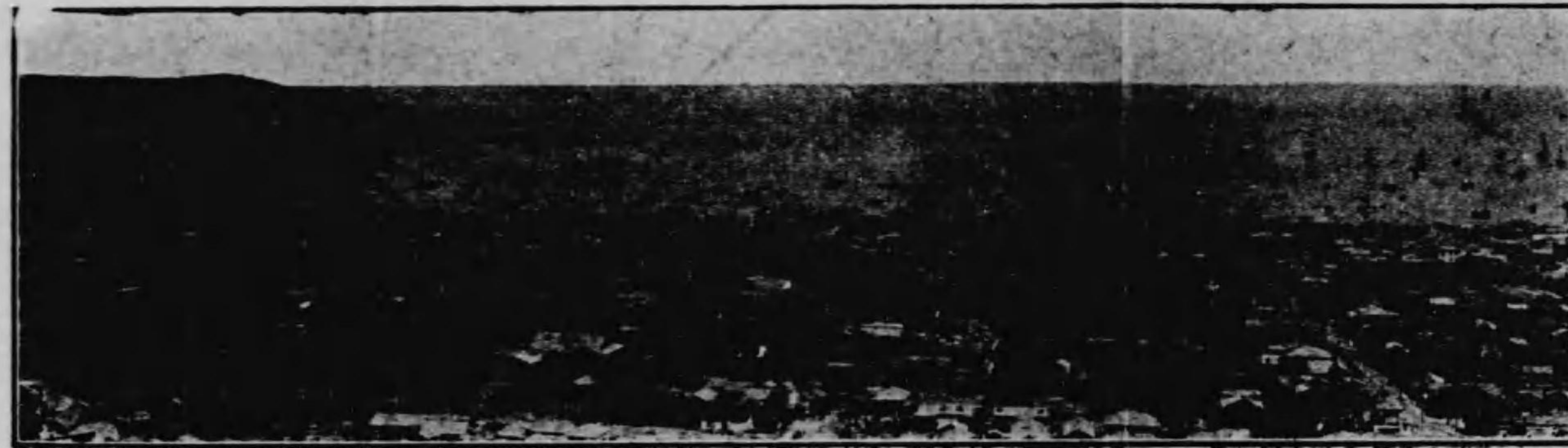


小樽區役所

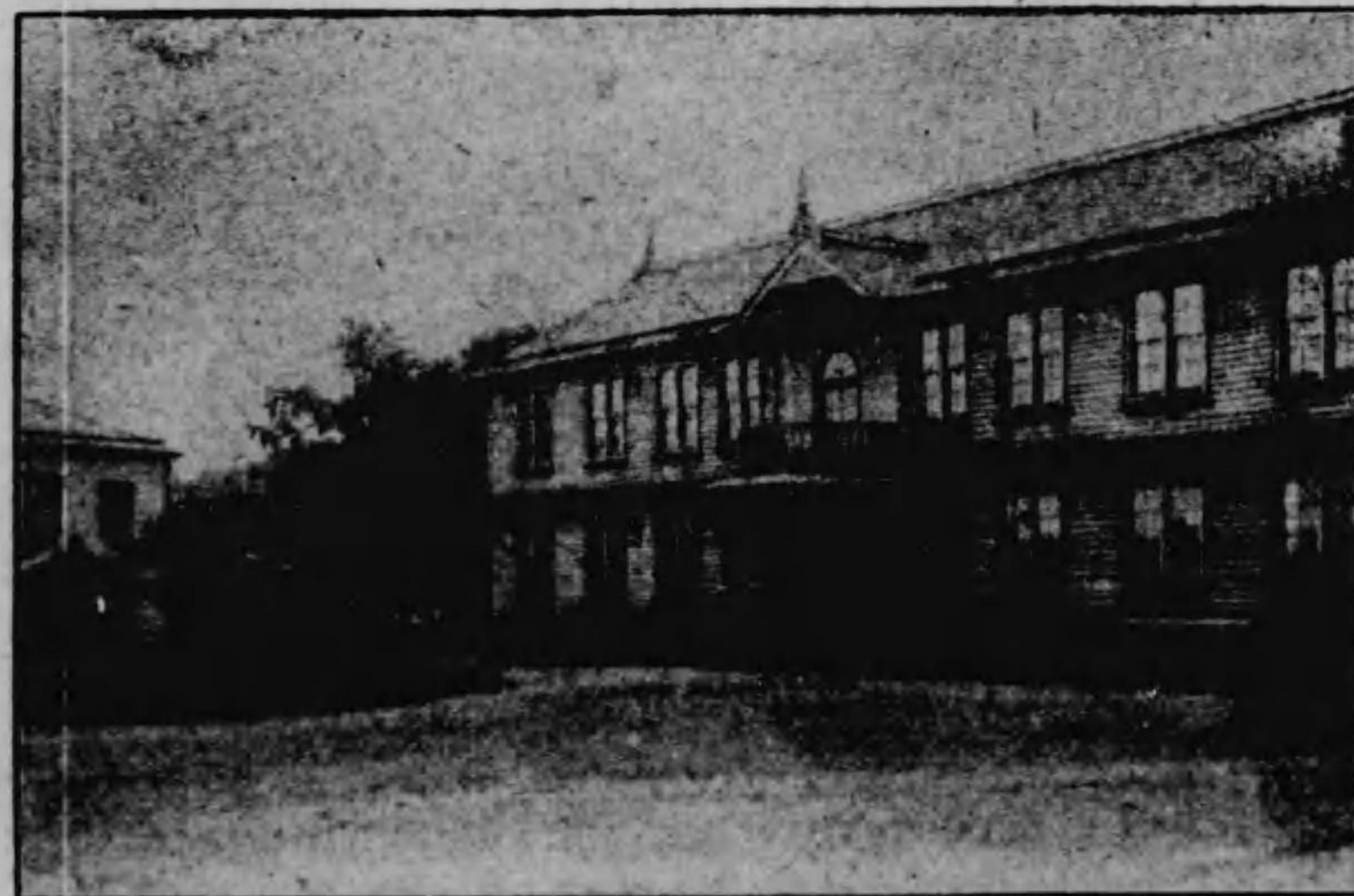


小樽高等商業學校之一部

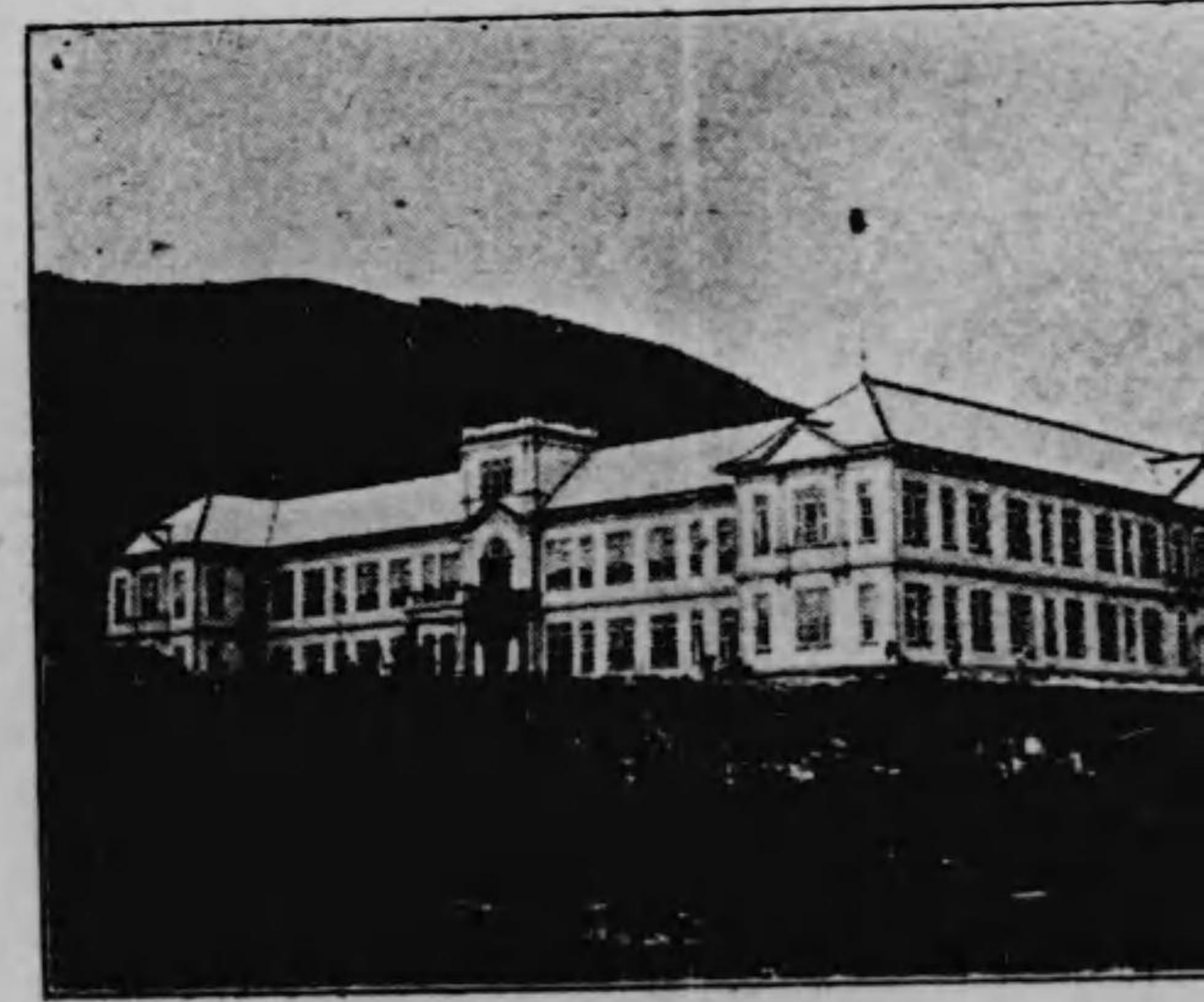
小樽區市街全景



日本銀行小樽支店



小樽區役所



小樽高等商業學校之一部

標商錄登



小樽區堺町

林屋製茶會社  
小樽支店

電話二二三二番電番(ハラ)  
振替口座小樽四五八番



會船郵本日



彫石岩樽小

全



洋物、小間物文具卸商

# 全梅屋商店

小樽區色内町六丁目

長電話 二一一番  
振替 小樽 二五番

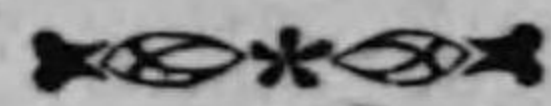
小樽區稻稻町大通り

運動器具、體操機械  
武術道具一式

# 梅屋運動具店

電話 九八六番  
振替 小樽 七〇番

## 營業品目



丸	硝子	硝子	洋	陶
釘	板	器	燈	磁器
其他雜貨	瀨戶引物	銘	麵	漆
		茶	類	器

愛知セメント特約販賣店

象車印燐寸特約販賣店



# 榊田合名會社

小樽區相生町三丁目十八番地

函館區地藏町十七番地

# 函館支店

電話 四六九六番  
振替口座 小樽 六八七番

榊田合名會社

内外藥品各種  
 醫療化學器械  
 衛生消毒材料  
 繪具染料漆類  
 度量衡器販賣  
 醫家處方調劑

小樽區色内町七丁目(郵本局隣)

帝國生命保險株式會社小樽代理店

② 谷黑莊平藥房

電話千貳百拾番  
 振替口座小樽七八三  
 東京九三二〇

緒言

■本書に類似した冊子は、既に二三種發行されてあるが、或るものは餘りに精細に、或るものは餘りに廣告本位の爲めに、孰れも觀光客の失望を買つてゐた。編者は是れを遺憾として、其缺點を補ふべく此小冊子を刊行した。

■在來の冊子と異なる點は、廣告を度外に附したこと、紹介の範圍を廣くして、要領の抽出を主としたこと、數字の配列は區役所編纂の「區勢一斑」に譲り、成るべく統計的の表を避けたこと(無味乾燥に陥るを虞て)官公衙、學校會社銀行等の主腦者氏名は、時々交迭ある爲め、多くは掲げざること等である。

大正七年八月

編者識

緒言

目次

小樽區の歴史……………一  
市街と港灣……………七  
市街の變遷……………八  
町名の改廢……………二一  
見物の道しるべ……………二七  
鐵道院の港灣修築……………三五  
區營埋立……………三八  
上水道……………四三

船舶用水道……………四八

道路と下水道……………四九

氣候……………五〇

火災の歴史と火防機關……………五一

衛生の設備……………五四

醫療……………五五

慈善事業……………五七

神社佛閣……………五九

各種の教會……………六四

遊覽地……………六五

手宮古代文字……………花園公園……………水天宮山……………手宮公園……………水源地……………

穴灘……………天狗山……………赤岩住吉神社……………龍徳寺……………五百羅漢……………高島……………

祝津……………蘭島……………忍路……………忍路環狀石籬……………神居古潭(張碓)……………

鏡函……………輕川……………

劇場と寄席……………八一

官公衙……………八二

學校……………九一

金融機關……………九七

各種の保險會社……………一〇一

海陸運輸……………一〇三

目次

大

營業倉庫	106
外國貿易	107
工業界	108
新聞雜誌界	110
商工業組合と會社	111
廓ものがたり	115
藝妓の繁昌	118
旗亭	119
旅客と旅館	120

—(終)—

視察 遊覽 小樽 案内

いろは堂書房編



小樽區の歴史

明治の初年戸數僅に四百四十四、人口二千二百三十人に過ぎなかつた。我がオタルナイ(砂)の川又は小石の川の義は僅々五十年の發達眞に驚く程で、今や戸數一萬八千戸、人口十萬四千餘人に達し、大正三年以後毎

小樽區の歴史

年約四千人宛の増加を示し、本道商業の中心地として、大都市を形成するに到つた。商業区域は膽振、後志、石狩、天鹽、北見、十勝等殆ど全道の過半に亘り、更に樺太並に新潟、敦賀、伏木、酒田、青森、下の關、横濱、神戸の各港及び朝鮮、支那、浦鹽、斯德を其勢力範圍に收め、年々異數の發展をなしつゝある。

顧みれば我小樽は昔時石狩、小樽兩郡の境界を貫流するオタルナイ川沿岸のアイヌコタンを、小樽に移し、漁場を開いた後、文化三年露人のサガレン島に來り、寇するに及んで、幕府の直轄となし、文政四年に至り、松前藩の管領に復し、安政二年再び幕府直轄に歸し、漸時拓地植民の策

を講じ、銳意税政を改善した殊に漁業は大に進歩し、現今の勝納川沿岸に始めて部落を作り、從來請負人、獨占の日用品販賣は、一般に許さるゝに至つた。

爾來春風秋雨、幾星霜を経て、維新後明治二年に蝦夷ヶ島を北海道と改稱し、之を十一國八十六郡に分ち、國郡町村名を附すに及び、小樽郡に編入せられ、明治三年四月オタルナイを廢して、更に小樽郡に山ノ上町、信香町、信香裡町、勝納町、若竹町、金曇町、芝居町、土場町、新地町を設置し、高島郡に色内村、手宮町を新設し、四年には小樽郡に更に開運町を、翌五年には有幌町、量徳町、永井町、入舟町、港町、汐見臺町、龍徳町、若松町を新設し、

六年には新富町、真榮町、高砂町を、翌七年河原町を設けたが市街の膨脹に連れ、八年には港町の海岸を埋立て堺町を置き、初めて陸路高島郡と往來の途を開くを得た。

此時に當り北見、天鹽二國の漁業は長足の發達をなすと共に船舶の來往、物貨の集散は漸く頻繁を極め商港の觀を呈するに至つた。次いで札幌間鐵道開通の翌十四年七月、高島郡色内村を色内町に、色内村裏通を稻穂町に、手宮村を手宮町に、手宮町裏通を手宮裡町と改稱した。當時の戸數は千二百八十五、九千八百四十四の人口で明治の初年に比すれば戸數に於て三倍、人口に於て四倍餘の増加を示した。

更に明治十一二年の交迄舊土人の居住した原町方面を住初町と改め、入舟町裏通と稱せしを相生町と改め、同十六年八月には曙町と住初ノ江町を置き、同十九年五月山田町を新設し、同二十三年堺町海岸に砂崎町、色内町海岸に南濱町、手宮町海岸に北濱町を新設し、三十八ヶ町村に膨脹した、同三十三年住ノ江町の遊廓を入舟町、奥天狗山麓に移し、柳町、京町、仲ノ町、辨天町、羽衣町を設けた。斯く町名設置の類々たりしを顧みれば如何に我が小樽が急激の發展をなせるかを想見するに足るのである。

又戸口の膨脹と商業の進歩は交通機關及び金融機關の完備發達を

促し、明治十三年手宮札幌間に鐵道の敷設を見、更に二十二年特別輸出港となり、二十七年米穀取引所を置き、二十九年商業會議所の設置となり、次いで三十三年開港場となつて、目覺しい進歩をなし、三十七年十月には函樽鐵道全通し、第一防波堤の竣工を告げ、今又第二防波堤の工事進行中であるから、數年の後區管理立の竣工を見れば、小樽港灣の完備は間然する處が無いであらう。

一方商工業其他の機關は一として備はらざるなく、金融機關は日本銀行支店を始めとし、多くの銀行本支店を有し、實に本道第一の商港たる地位を占めつゝある。

### 市街と港灣

市街は小樽高島兩郡に跨り、西南北の三方は蜿蜒たる山脈にて圍まれ、東北一帯は渺茫たる日本海に臨み、前方に高低起伏の厚田濱益増毛の連山を指呼の間に望みて、風光頗る佳絶である。港は北西高島岬より弓狀を描いて沿岸、凡そ一萬五千尺にして、南平磯岬に至り、防波堤は長蛇の如く南北より突出して、内に幾多の船舶を碇繋せしめてゐる。市街は東西二里十六町、南北二里三十五町、千六百八十七萬五千坪の大地積を有し、市中多くは丘陵起伏して平坦の地は殆ど海岸一帯に限られて



ある。

### 市街の變遷

抑も小樽の發達は勝納川の沿岸に端を發してゐるが當時同川の沿岸にはアイヌ小屋點々として散在し、和人は僅に川口に住居したるに過ぎなかつた。斯くて明治元年に至り戸數四百四十四戸となり、小樽郡に編入されし明治三年には六百二戸に達した。市街の膨脹は勝納川を基點として西と北とに展開し、明治七年迄の間に開運、量徳、入舟の各町又海岸には有幌港、永井町を更に勝納川の西に沿ふて汐見臺、龍徳、

開運町の南に接して若松、新富、真榮、高砂、河原の各町が設置された。遊廓は金曇町にあつて、日夜管絃の音は絶え間もなかつたが、十四年の大火にて盡く火爐に歸して了つた。越えて十六年遊廓は住之江町に移轉し、

般販の中心地となつた。

一方鐵道開通後の手宮方面の發達著しく、而も船舶碇繋の位置變更等から商業の要區は漸次南北濱町から色内方面に移るやうになつて、市街は山の手方面に擴がり行き遂に今日の花園、稻穂町の繁榮を見るに至つた。次いで函樽鐵道の開通となり、中央停車場が稻穂町に新設されるやうになつてからは、一望畑地であつた榎本、北垣兩氏所有の

稲穂町は俄然大市街を形成した。然るに明治二十九年四月の大火は一夜にして住之江町の遊廓を烏有に歸せしめ、天狗山麓に移轉すると同時に、同町並に入舟曙、量徳の各町は昔日の繁榮を奪はれて了つた。斯くて明治三十七年祝融子は稲穂、南北濱町色内、堺手宮の各町を焼き拂ひ、焼失戸數實に三千戸に達した。恐るべき大火があつてからは、區劃を整理し、道路を改修した。現今稲穂町から色内町を縦貫して海岸に通じてゐる第一、二、三火防線と、港町から色内町を貫く、國道筋や第一、第二の花園町通りは此頃に整理されたのである。

越えて明治四十年には、第一火防線に在つた小樽區裁判所を稲穂町

奥(現今の緑町)に移し、夫いて四十四年五月に、俗稱津輕町と稱する高地は、高等商業學校と應立小樽商業學校の設立されてからは、雜草茂れる同方面は、忽ち人家櫛比して、今では殆ど昔日の面影を止めぬやうになつた。又四十年三月には、天狗山麓の南廓の外に、手宮町奥に北廓を設けた。

### 町名の改廢

逐年戸口の増加と市街の膨脹に伴ふて、町名番地の複雑を來かして、區内に住居する人すら番地を知るに苦しむので、區民は等しく町名の

改正を望んでゐたが、遂に大正四年に至つて完全なる町名番地が編成され新町名を記した札を辻々に掲ぐる外全區に亘つて戸毎に改正町名と番地を記載した小札を掲示し、初めて小樽に來た人々にも判るやうにした、左に改正町名と區域を掲げやう。

**信香町** 舊信香、信香裡町の大部、金曇町の一部及び若松町一番地

を含み、東は海岸、西は信香裡町西端、南は勝納川、北は開運町を以て境とす、之を北より南へ一丁目より三丁目に分つ。

**新地町** 從來の新地町鐵道以西を除き、新地、龍德、若松、金曇、土場町の

一部及び河原町を含み、東は信香町、西は鐵道用地、西端、南は勝納川、北

は若松町を以て境とする、之を北から數へて一丁目から三丁目に分つ。

**高砂町** 從來の高砂、新地、芝居、龍德町の一部を含み、東は信香町、西

は高砂橋通、南は勝納川、北は龍德町通を見通し、高砂橋通に至る區域で

ある、東から始め一丁目から三丁目迄。

**若松町** 舊若松町一番地を除き、土場、高砂、芝居、龍德町の一部を含み、東は信香町、西は高砂橋通、南は高砂、新地町、北は從來の開運町を以て

境とする、東から數へて一丁目から三丁目迄。

**開運町** 舊開運町の内、高砂橋通以西を除き、信香、信香裡町の一部

を含み、東は海岸、西は高砂橋通、南は若松、信香町、北は量德、永井、山ノ上有

幌町を境とする、東から始めて一丁目から五丁目迄。

奥澤町

舊奥澤村の一部と量徳町開運町の一部を含み、東は高砂

橋通西はオネナイ道路及び向側豫定道路南北は従來の境界線を以て

眞榮、量徳、入舟町に境してゐる、東から始めて一丁目より七丁目迄。

天神町

舊奥澤村の一部を分割して設けた新町で、東は奥澤町其

他従來の境界線である。

有幌町

従來の通り、東は海岸、西は舊境界崖下、南は開運町、北は入

舟町通を以て境してゐる。

山ノ上町

東は有幌町、西は従來の山ノ上町境界を以て住初、永井兩

町に接し、南は開運町、北は舊境界を以て有幌、入舟兩町に隣りしてゐる。

永井町

東は山ノ上町、西は鐵道用地西端を以て開運、量徳、住ノ江

町に接し、南は開運町、北は住初町に接し、舊土場、量徳町の一部を含み、北

から始めて一丁目より三丁目迄。

量徳町

舊量徳町通以北及び住吉神社用地の以北の一部と住吉

神社南側豫定道路以南の一部を除き、東は鐵道用地、西は住吉神社西端

を以て入舟町と接し、南は舊境界線を以て開運、奥澤町、北は住吉通及び

住吉神社用地の北端を以て住ノ江町と入舟町に接す。

住ノ江町

東は鐵道用地、其他は従來の通りで、舊住ノ江町中七丁目

以西の一部を除き曙、量徳町の一部を含み東から始めて一丁目より九丁目迄。

住初町

従来と異なる處なく、東から始めて一丁目より二丁目迄。

入船町

舊港町の一部及び花園、住ノ江、量徳町の一部を含み仲町

通以西の全部公園南通以北と西通花園町境の一部を除き、東は國道筋西は南廓仲ノ町通を南北に延長せる道路を限り、南は住初、住ノ江、量徳奥澤各町北は従來の相生町境を鐵道用地西端に至りて北に折れ、花園町境に沿ひ公園東通に至り下水敷地に沿ひ公園南通に至る公園地を以て境としてゐる、東から始めて一丁目より九丁目迄。

港町

舊區域中國道線以西入舟相生町に接する一部を除き、東

相生町

舊區域中鐵道線路以西全部を除き、港町の一部を含み、東

は港町、西は山田町、花園町、南は入舟町、北は東雲山田町に境す、北から始

めて一丁目より三丁目迄。

堺町

舊區域中の崖上の全部及び水天狗山下飛地を除き、砂崎

町の全部と於古發川以南の色内南濱町の一部を含み、東は海岸西は崖上から於古發川に達し、南は舊境界線を以て港町に隣り、北は於古發川に至る。

東雲町

舊堺町崖上の全部及び公園通以北山田町の一部を以て

新に設けたる處東は堺町西は舊山田町境界線南は公園通より水天宮社地に沿ひ相生町の境界線北は於古發川に至る。

山田町

公園通以北及び花園町通の飛地を除き東は相生東雲兩

町西は鐵道用地西端南は相生町通北は於古發川を以て境とす。

花園町

公園地及び同地の西部を除き東は鐵道用地西は公園南

は入舟町北は於古發川を以て境とし北から始め一丁目より四丁目に至り西通を以て東西に分つ。

松ヶ枝町

入舟町の内仲ノ町通を南北に延長したる道路以西全部

及び花園町天狗山下の飛地奥澤町の内入舟町と奥澤間豫定道路に沿へる一小部花園町の内於古發川支流以南の一部を以て設けたる新町であつて東は入舟町及び南廓西は官地南は奥澤町と天神町北は於古發川支流を以て境とする。

最上町

舊花園町の一部及び堺入舟兩町の飛地を以て設けた新

町て東は南廓洗心橋通西は官地南は於古發川支流北は於古發川本流を以て境とする。

南濱町

東は海岸南は於古發川西は出抜け小路北は色内川の延

長線て境とし北濱町六丁目の一部を編入してゐる。

北濱町

舊出抜小路以西の一部、手宮川以北全部及び色内川延長線以南の地を除き、東は海岸、西は従來の出抜小路、南は手宮川の延長線、北は色内川を境とす。北から始めて一丁目より五丁目迄。

色内町

従來の鐵道線路と鐵道線路以東の稻穂町の一部、夫れに南濱町の一部を含み、鐵道以西と於古發川以南の地を除き、東は拔小路、西は鐵道線路、南は於古發川、北に手宮町を以て境とする。北から始めて一丁目より八丁目迄。

稻穂町

東は色内町、西は鐵道用地及び手宮町の一、端に沿へる線を限り、南は於古發川、北は石山頂上の豫定道路を以て境とし、北から始

め一丁目より八丁目迄。

富岡町

舊稻穂町の一部を割きて設けたる新町で、東北は鐵道用地、西は官林、南は於古發川及び高等商業學校、通畑五十番地の三を以て境とし、東から始め一丁目より二丁目に至る。

小樽公園

舊稻穂町の一部、假設水道用地を割きて新に設けられたる地名で、區域は従來の公園地一圓である。

緑町

舊稻穂町の一部及び色内町の飛地を以て設けられた新町で、東は於古發川、西は官地、南は於古發川の本流、北は高等商業學校、通畑官地を以て境とし、東から始め一丁目より五丁目迄。

**手宮町** 従來の手宮町の内手宮川以南の鐵道線路以西を除き出抜小路以西及び手宮川以北の北濱町高島通以東手宮裡町の一部を含み東は北濱町及び海岸西は鐵道線路より手宮川に沿ひ高島通南は色内町北は手宮公園と厩町を以て境とし北から始めて一丁目より四丁目に分つ。

**厩町** 従來と同じである。

**手宮公園** 従來手宮町の一部を割いて新に設けた地名で公園地と官有地を含んでゐる。

**錦町** 従來の手宮町と手宮裡町を割いて設けた新町で東は鐵

道線路西は火防線通南は石山頂上豫定道路北は手宮川通を以て境とし北から始めて一丁目より三丁目に至る。

**末廣町** 舊手宮裡町の一部を割いて設けた新町で東は高島通西は山中街道南は手宮川通北は高島村境で限られてゐる。

**石山町** 舊手宮裡町の一部を割いて設けた新町で東は錦町西は高島學校西方の丘陵頂上で境し南は石山頂上豫定道路北は八間道路と舊鹽谷街道との間の小路を限り北から始めて一丁目より三丁目迄

**豊川町** 舊手宮裡町の一部を割いて設けた新町で東は錦町西は手宮西小學校東側豫定道路南は石山町北は手宮川に沿ひ畑二番地の



丙を以て境とし、東から數へて一丁目より四丁目に至る。

**梅ヶ枝町** 舊手宮裡町の一部を割き又高島村畑二百九番地の飛地

を以て設けられた新町で、東は山中街道西は豫定道路南は豊川錦兩町、北は高島村の境界線である。

**清水町** 舊手宮裡町の一部を割いて新に設けられた町で、東は豊

川町西は傳染病院手前の低地南は舊鹽谷街道北は畑百三番地の北端

て境してゐる。  
**源町** 舊手宮裡町の一部を割いて設けられた新町で、東は梅ヶ

枝町西は傳染病院前通り山中に通ずる道路南は清水町北は高島村に

境してゐる。  
**砂留町** 舊手宮裡町と稻穂町の一部を割いて新に設けた町で、東

は稻穂町及び同町五十八番地の東端に沿へる線西は官地南は鐵道用

地北は手宮裡町畑二百二十一番地から稻穂町畑五十番地の二に至る

北端線を限つてゐる。  
**長橋町** 舊手宮裡町と稻穂町の一部を割いて新に設けられた町

で、東は源町清水町西は官地南は砂留町北は陸軍用地より色内川支

流北端を以て境とする。  
**松山町** 舊手宮裡町と稻穂町の一部を割いて設けられた町で、東

は鹽谷街道西は官地、南は長橋町、北は畑五十九番地の北端を見通した線を限つてゐる。

幸町 舊手宮裡町の一部を割いて設けられた新町で、東は源

町と長橋町、西は鹽谷村、南は鹽谷街道、北は官地を以て境とする。

坂本町 従來の手宮裡町と稻穂町の一部を割いて設けた新町で、

東は鹽谷街道、西は官地、南は松山町、北は鹽谷村に境してゐる。

附記 若竹、勝納、潮見、臺新、富真、榮と南廓の各町は従來の通りで芝居、

河原、金曇、龍徳、土場、信香、裡曙、砂崎、手宮裡の各町は廢止となつた。

### 見物の道しるべ

旅客若し中央小樽驛に下車しダラ／＼坂を下れば此處は一に第二  
火防線と稱する稻穂町で、左右には旅館多く、櫛比せる商店は概して小  
賣を本位としてゐる。此町を一直線に進むと色内町に出る。色内は小樽  
区内で最も繁榮を極めてゐる町で、大會社、銀行、大商店、郵便局、大旅館等  
の大厦、高樓が莖を並べてゐて、實に小樽の商取引は此町で行はれてゐ  
るのである。更に海岸に下ると移民休憩所及び小樽水上警察署の前か  
ら船客用の棧橋に出る。南北の兩濱町を臨めば煉瓦、石造等の大建築物

が帆船林立する港に面し弓状を描いて建ち並んでゐるを見るてあら  
 う是等は孰れも倉庫業海運業等の建物で輸出入の貨物を揚卸しする  
 人夫の活動と絡繹たる車馬の往來は遺憾なく商業地としての小樽を  
 説明してゐる北濱町の海面は區營第一二區の埋立地で今や第三區に  
 着手しつゝある此埋立が完成した曉には海陸の聯絡が整備し世界  
 的大商港たることを實現するに至るてあらう。  
 再び色内町に戻り國道筋を手宮町をさして進むと石山下の手宮停  
 車場前に入る此驛は旅客と貨物本位で専ら同町方面の商取引上の爲  
 に建設されたのである此驛と同じ側の日本郵船株式會社小樽支店前

を過ぎて鐵道の終點に達すると此地一帯は鐵道院の埋立地で各炭山  
 から搬出された石炭は高架棧橋に依りて石炭船の船腹に流れ込むの  
 だ棧橋の側から直ちに沖に一線を引く第一防波堤はポントマリ岬を  
 起點として南方平磯岬に向つて延長四千二百五十尺に亘つてゐる堤  
 頭は水深四十五尺で小樽港の中央たる堺町の立岩を距る四千五百尺  
 の地點にあつて高さ六十尺光達七哩の赤色燈光を點じてゐる工事に  
 着手したのは明治三十年九月で總工費二百十八萬九千餘圓を費やし  
 四十一年五月に竣工したのだ一方工事中の第二防波堤は明治四十  
 一年四月に起工して大正八年三月に至る十二箇年の繼續事業である設

計は港の南端平磯岬に起りポントマリ岬に向つて延長七千八百尺、港口は九百尺を隔て、第一防波堤と相對してゐる、竣工の曉には小樽港灣の面目は一新するてあらう、ポントマリ岬附近から厩町へかけては三井物産會社其他の木材が常に山積してゐる、手宮停車場の後方の高丘は手宮公園で樹木に富み、全市街を双眸に收め遠く石狩天鹽の連峰を望み風光佳絶である、公園の下を右に折れて行かば北廓に達する、歩を轉じて手宮町豊川町を淨應寺坂に下り稲穂町を一直線に第一火防線に出づれば日本銀行支店税務署郵便局等の建築が目に入る、色内町を右に行けば間もなく於古渡川に出る、川を挾める町は俗稱妙見

町と稱し花柳の巷で旗亭見番常設活動寫真館の在る處だ左の小高い處に見ゆる洋館は小樽俱樂部である。界町から港町へかけては各卸問屋倉庫澱粉再製所豆撰工場等市街の大部分を形成してゐる、港町には小樽新聞社造船所等がある、此町は小樽区内で最も道路の悪い處で雨降りの日や融雪期又は晩秋の頃は眞に泥濘脛を没して掬はゞ鱗も居るてあらうと思はれる程だ、港町を抜けて入舟町に至れば最う舊小樽の面影がチラつく、山ノ上住ノ江量徳の各町から向ふは古の繁榮は夢と消え失せたが、甕て埋立地が完成して鐵道線路が海岸に移され小樽驛の移轉を見るやうになれば

再び昔日の殷賑に甦るであらう。  
 入舟町を上つて左へ折れ、花園第二大通を右に見て住ノ江町の大道  
 路に出る、量徳町には縣社住吉神社があり神社を背にして小樽病院前  
 通を下れば直ぐ小樽停車場に達する、又神社前を真直ぐに行くと廳立  
 小樽中學校や小樽盲啞學校に至り奥澤町を上れば水源地に到達する。  
 勝納川の流域に沿ふて下り右に折れると鐵道院の埋立地に出る、朝  
 里隧道に近く小樽築港驛があり更に若竹町の丘上には廳立小樽水産  
 學校が在る。  
 再び入舟町と花園第二大通の十字路に返り西に進めば南廓に達す

# 吳服太物問屋

小樽區入舟町壹丁目



## 小杉合名會社

小樽支店

振替貯金口座小樽八番  
電話八番電略(コスキ)

活版石版印刷  
 內外諸紙文具  
 諸帳簿製造  
 堀井謄寫堂代理店  
 ヒラノ荷札代理店  
 諸新聞廣告取扱



鹽野其水堂

諸官廳御用達

小樽區色内町 (三四)  
 電話 長 (三四)  
 振替口座小樽 (三四)  
 電話 (九〇六)

小間物化粧品雜貨卸商

江州本場特製合羽油紙一手發賣元

命 中松合名會社

小樽區住初町壹丁目(舊永井町)

電話 長 壹 貳 參 番  
 振替 小樽 貳 七 〇 番

商品目錄申込次第進呈

商標 登録



油 醬

醸造元



石橋彦三郎支店

小樽區奥澤町三丁目

電話長三十五番  
振替口座小樽三十五番

る花園第二大通から公園の東方一帯は多く官公衛學校銀行會社等の  
 勤め人が住居してゐて区内で家賃の最も高い處である、應立高等女學  
 校は公園内の小高い地に建てられてある花園公園は廣さ約十萬坪の  
 地積を有し明治三十三年から設備に着手したので未だ幽邃の趣は  
 ないけれども天然の丘陵を利用してあつて眺望の佳絶なるは誇るに  
 足る門を出て、東方に進み花園第二大通を横断すると間もなく花園  
 第一大通に出る、此處は区内で最も人通りの多い處で眞夏の宵などは  
 眞に來往の男女肩々相摩すばかりである、兩側に櫛比せる各種の商店  
 は小賣を主としてゐて、公園通には夏期多くの露店が出て客を呼ぶ聲

見物の道しるべ

三三

が賑かである附近には劇場錦座を始め活動寫真常設館がある。花園橋を渡れば古着古道具の店舗軒を並ぶ山田町に出づべく更に急峻の坂路を上れば水天宮山頂に達する。此處は眞に天然の展望臺で全市街と灣内を瞰下し石狩天鹽の連山を指呼の間に望み眺望洵に心往くばかりである。小樽區の視察に時間の乏しい旅客は宜しく此頂上に佇んで區の大觀を看取すべきである。

山を下り花園町を北に進まば應て妙見町との交叉點に出る。此處から西へ山の手の方向に行くと富岡町と緑町に達する。元金澤植物園前を地獄坂に行けば俗稱津輕町の丘上に小樽高等商業學校と應立小樽

商業學校の大建築が目につける。應立商業學校の背後の官山には午砲所がある。此邊一帶は學生と勤め人の巢窟である。緑町の大通には小樽區裁判所と札幌地方裁判所小樽検事局がある。

以上は小樽區の道案内の概要であるが官公衙銀行會社學校其他名勝の詳細は項を更めて記載する。

### 鐵道院の港灣修築

鐵道院の港灣修築は明治三十八年舊北海道炭礦鐵道會社が手宮停車場沿岸約一萬六千三百坪の埋立を起工し、三十九年鐵道國有と共に



政府が之を繼承して竣工したが、更に隣接の海面約一萬六千餘坪の埋立を起工し、石炭船積用の高架棧橋を建造し、海陸運輸の連絡に改善を加へた。然し逐年船舶の輻輳益々頻繁を加へ、貨物の集散愈々増加を來たすので、更に勝納方面の海面約十二萬坪を埋築し、海陸運輸の要求に應ぜんとした。工事は港町船入洞の前面即ち立岩の南方約二百間の地點から、若竹町地先き北海道廳の埋立地迄の海岸である。是は現在の小樽停車場が丘陵起伏した狭く、在つて、海岸に遠く到底海陸の設備を施し難い爲と、勝納川以北の平地が狹隘な爲とである。埋築の設計は總面積十二萬餘坪で北端に築かる、埠頭は、片棧橋の構造で、幅

二百七十呎長、西側九百呎、東側千五百五呎、二千噸乃至六千噸の商船各二隻を同時に繋留せしめ、埠頭上には鐵道の敷設と上家を建築し、貨物積卸しに充て、荷役は一ケ年四十五萬噸の豫定である。又普通貨物用の物揚場は埋立地北部前面一帯の海岸に設けて一ケ年二十五萬噸の荷役力を有し、南方沿岸延長五百四十九間、は、四十九萬噸の木材船積用に供するのである。尙埋立地西方に最小幅員十五間の運河を鑿ちて、解船の出入に便ならしめ、其の沿岸は必要に應じて、貨物積卸に用ふることをした。一方陸上には、木材置場、上家貯炭場、車輛修繕場、諸建物、鐵道側線、道路、橋梁の造設をなし、埋立地の一端に旅客停車場を設置するの設計

て明治四十五年四月其第一區工程を起工し勝納川以東若竹町前面の北海道廳埋立地に至る海面約六萬八千二百八坪を埋築し大正三年に竣工した引續き施工さるべき第二區埋立地盤面は大干潮平均面上六呎六吋で現在の手宮停車場構内埋立地盤面と同じである。

### 區營埋立

小樽區の大問題たる區營埋立の起因は明治三十二年三月小樽高島二郡の町村總代人が研究調査の結果町村の事業として埋立を行ふことを道廳に願出たのに始る當時北海道炭礦株式會社も公有海面の

埋立を出願したので本道拓殖上の趨勢に鑑みて是非共區の直營にしなければならぬと猛然反對をして大騒動となり遂に道廳では小樽築港調査會を設け小樽では改良工事委員會や修築期成有志會等が組織し當局者に対して數回陳述した。當時の設計は現在の手宮線を撤去し之を埋立地に移し埠頭と倉庫とを連絡させ又函館線は隧道に依つて水天宮山下を通り陸橋を以て港町を横斷し有幌前面の埋立地に連絡停車場を設け海面には埠頭運河船入洞を設置するといふのであつた。三十七年十月に至り炭礦會社出願の區域丈を除いて許可の指令書を下附されたので更に埠頭岸壁式に設計を變更して出願し

四十一年六月許可を得たが、區債の關係上着手することが出来なかつた。然るに明治四十二年七月小樽區顧問技師たる廣井工學博士の歐米各國の港灣視察談に依つて、區會の決議を経て埠頭岸壁式を運河式に設計變更を認可申請した處が、四十三年八月三日に道廳土木部長から曩に許可した埋立區域範圍に設計を立て陸運の趨勢に鑑みて確實安全な收支豫算を計上して更に出席せよとの通牒に接した、恰も同年十月鐵道院は十三萬餘坪の大埋立を爲さんとして區に同意を求めて來たので、區は非常に狼狽し、再調査をした結果同年十二月埋立地面積を縮少し、道路や鐵道敷地を高くし、左右に傾斜を附すること等を設計

替へをして申請書を提出した、越えて大正二年末に至り端なくも延期速成又は運河平面等の議論が沸騰して、兩派の紛擾底止する處を知らず或は埋立速成會を組織して、延期派と對峙し中央政界に活躍を試み暗闘劇甚を極めたが、遂に大正三年三月二十七日主務省は、前述の設計に大修正を加へ運河の幅員十七間を二十二間に、水路五條を三條に其幅員十二間を十五間に擴大すべしとの變更命令で、運河式派は大打撃を蒙つたが、區會多數を有する速成派の勝利に歸した、更に設計に於て兩者の調停を圖つたが、夫れは遂に不調に了つた、そこで二十二間運河式の設計案の大要は、先づ船入澗を一ヶ所設け、現在の南濱町船入澗

を前面の埋築地元に移し、其南北に物揚場を設けること、税關敷地は新設船入場の北端に、水上署其他は南端に設けること、運河は現在の海岸道路に沿ふて海中に築き、解船の荷役と通航に供し、其幅員二十二間延長は北方濱町地先郵船會社支店所屬の船溜場北手から南方於古潑川南手先に至り、其南北端は埋築地で擁すること、埋築地は四區に分ち各區は半島形若くは島形を成し、上家、物揚場、道路、鐵道、倉庫の敷地に供すること、上家敷地は埋築地の港岸に接して設け、物揚場敷地は埋築港岸に接して上家敷地に隣接し、船入場の南北兩端に設けること、倉庫敷地は埋築中運河に前面し、其背面に鐵道線路若くは道路を有する位置

にあつて、水陸共に利便なること、埋築地の道路は稍々其中央を南北に縦貫する幅員七間の幹線を設け、在來道路に分岐連絡し、現在の海岸道路は海岸に向ひ降り勾配に削り、解船荷役及び排水の便に供する、道路橋は總て鐵橋とし、橋面の幅員三十尺とすること、鐵道線路敷地は専ら貨物運搬用の線路に充つるもので、其位置は手宮川から埋築地内に入り、幹線道路と倉庫地の中間を走り、埋築地の南端立岩まで縦貫すること等である。以上の設計に基いて、六ヶ年の繼續事業として、愈々大正三年度から起工し、第一區と第二區は略竣成し、目下第三區の一部施行中で、總工費は百九萬六千三百十四圓である。第一區(北濱町)の埋築地

には、開道五十年記念博覧會の第三會場たる水族館が建設された。

### 上水道

明治二十七年時の小樽六郡長添田弼氏が小樽の發達に鑑みて水道の必要を認め道廳技術員に之れが調査を囑托したのが、抑々小樽水道の濫觴である、越えて明治三十四年から實査に着手し、三十五年十二月に至り三ヶ年の繼續事業として、給水人口十五萬人、工費九十五萬餘圓としたが、翌三十六年十二月海陸設備調査委員附屬技師稻垣實古賀淳太郎の兩氏が更に調査し、貯水池の擴張、濾過池の新設及び配水池の位

置變更の爲め、總豫算百萬餘圓とした、内三十三萬圓は國庫の補助を仰ぎ、殘餘は起債に俟つこととし、四十一年三月愈々工事に着手した、工事の進行するに連れ、豫定人員給水構造に危険の虞れあるを發見したので、既定設計を擴張改善する必要を認め、貯水池は十萬人の供給を十三萬人と改め、放水路と溢流路の大きさを擴張し、濾過池を四個とし、速度一晝夜に十尺二寸とし、大正三年九月幾多の困難を経て竣工した、總工費百二十一萬二千九百餘圓、貯水池は奥澤字二俣にありて、此處に沈澄せしめ、濾過池配水池を経て市中に配水するので、一日一人の平均給水量を三立方尺半と定めてある、此の貯水池は二俣の勝納川本流と二俣

支流の合する地點を下る一町餘の處に築いた大堰堤の上流に在る。堰堤は土堰堤で一箇の取水塔と溢流路を備へてゐる。本池の上端には水門を附し、平時は河水を導き、豪雨の際は池側の放水路から放水する。貯水池の有効貯水量は千五百萬立方尺で、満水の面積一萬九千坪、最大水深六十二尺、有効最大水深四十二尺である。

此處から放流された水を受くる四個の瀘過池は、貯水池の下三町餘に在つて一個の大きさは長さ二十三間幅十八間、瀘過速度は一晝夜十尺二寸である。斯くて瀘過された水は入舟町奥の高地に設けた配水池に落ちて全區に配水されるのである。而して其満水面は海拔二百十九

尺水深十四尺、人口十三萬人に對する平均水量十二時間を貯へる。引水路は源を貯水池附屬水塔に發して、二十吋の鐵管を通じ、瀘過池附屬第一集合井に至る。此の延長二百二十間、落差六尺更に水は鐵管で瀘過池に導かれて淨水となり、再び瀘過池附屬第二集合井に集合し、奥澤道路に沿ふて降り、左折して前記の入舟町奥配水池の高區分水井に達する。此の延長千二百五十二間、落差三十九尺である。斯くして全區に配水する、線路の總延長は約十六里に亘つてゐる。

全線中各消火栓の噴水力七十尺に達するものは色内町郵便局脇で、其他四十尺乃至六十尺の噴水力を有してゐるのが十六個所ある。其他

小樽案内  
區設消火栓は三百十五、私設消火栓は百十六を有してゐて、防火に一大  
偉力を奏しつゝある。  
四八

### 船舶用水道

船舶給水の假設水道は、明治三十八年の秋、總工費二萬五千圓を以て、  
於古濑川の上流に建設した、極めて簡単な装置で、海岸に引用されてゐ  
るが、一日の最大給水量に二百六十餘噸で、尙非常用水として常に四百  
噸を貯水してゐる。

小樽區港町

清 酒



大塚合名會社小樽支店

長電話參貳〇番  
振替口座小樽八參番

吳服  
木綿  
澱粉袋

卸商  
**命**

前川太兵衛支店

小樽區永井町壹丁目

電話長四〇四番  
振替口座小樽三七八番

●紙 茶

●文 房 具

●エハガキ

●荷札製造

**正**  
西田商店

小樽區永井町貳丁目

電話一七五四番  
振替小樽一一三九番



◎ペアー万年筆發賣元

小樽區色内町七丁目(郵便局向)

銘茶  
諸紙  
文具

問屋



早川商店

振替小樽一〇番  
電話一園一一九番

◎ペアー鉛筆發賣元

### 道路と下水道

小樽の國道筋は東南朝里村字熊確から西北鹽谷村に至る延長四千九百餘面積三萬一千八百八十六坪で、其維持修繕は國庫の支辨である。區費支辨に屬する里道は其延長四萬四千七百二十二間面積二十八萬八千八百二十五坪を有して居る。

何分當區は創設以來、年尙淺いので地盤が未だ堅固でないのと、土質の大部分が粘柔の上に、石や砂の含有量が極めて少ないのに、荷馬車の往來が頻繁な爲に、一度降雨に逢ふと忽ち泥の海と化して了ふのであ

道路と下水道

る、是れが爲に區は毎年巨額の費用を投じて修繕に努めてゐるけれど、尙遺憾の點が多いから、八ヶ年の繼續事業として、三十二萬五千圓を道路に、三十七萬五千圓を下水道に投じて、區内の樞要道路に對し、根本的の改善を加へることになつたから、漸次面目を一新するであらう。

### 氣 候

當區の一年中最も暑い時は八月五日の(大正六年)攝氏三十六度で、最も寒い時は一月十六日の十一度である。然し大正七年の一月五日の如きは零下四十度にも下降した降雨の量は十月二十七日(大正六年)の三

五八、〇〇が最も多く五月廿八日の二、〇〇が最少量を示してゐる。降雪量は二月廿二日(大正六年)の四尺二寸五分を最とし四月十七日の二寸を最少としてゐる。又降雪期は十一月の十日前後で翌年四月十五日迄には悉く融雪して了ふのが例である。要するに氣候は寒冷で降雪の多量は免れぬけれど、暖流の調節に依つて比較的温和である。

### 火災の歴史と火防機關

函館區と共に火事の名物と稱せられてゐた小樽の火災歴史は、明治十四年の金曇町同二十二年の永井町二十九年の住ノ江町次いで三十

七年五月八日午後九時、稻穂町米穀取引所裏から出火して、忽ち南は第一火防線を境に、西は中央停車場前通下、東は海岸迄、北は中央座前を斜に、色内川を越えて石山下迄、延焼約二十時間にして二千七百六十六戸を烏有に歸した。更に四十一年には約八百戸を焼失した。手宮裡町の大火、大正二年五月、稻穂町二百餘戸の火災の慘禍を蒙つてゐる。然し夫れ以來は區民各自の注意と火防機關の完備に依つて、從來のやうな大火に見舞はれぬやうになつた。

現在の火防機關は、公設消防組と私設火災豫防組合とがあつて、公設の消防組の總員は、第一部から第八部に至る三百四十一名、其中組頭一

名、部長八名、小頭十六名、機關士五名、火夫四名、他は皆消防手である。火見槽は各部に一箇所宛を備へ、蒸汽唧筒四臺、腕押唧筒四臺、水管車八臺を有してゐる。又水道の消火栓は全區に二百九十六箇を備へてゐるから、若し夫れ一齊に之を開かば、放水射程百五十尺、放水量一時間に三百五十石を送出する。一方私設の火災豫防組合は、各町民の自治團體で、全區を三十三部に分ち、組合の總員五百七十一名に達し、腕押唧筒三臺と、水管車四十八臺を備へ、ホース三百六本を有して、消防の有力なる應援者として活動してゐる。

### 衛生の設備

衛生の設備としては、全市の掃除區を五部に分ち、一部に一名宛の監視吏を置いて掃除の督勵に努めてゐる。更に全市に三十部の衛生組合を設け、常に受持區域の衛生状態に留意せしめつゝある。長橋町には區立の傳染病院ありて、真榮町には塵芥焼却場を設けてある。區民には可及的水道を使用せしむるやうに勸誘し、井水は漸次廢せしめる方針を執つてゐる。今大正六年度に於ける傳染病を示すと、腸チブス患者八十五名中死亡十四名、デフテリヤ八十五名中死亡十七名、バラチブス六

十八名中死亡九名、猩紅熱六名死亡なし、赤痢八名中死亡二名、合計患者二百五十二名で、死亡は四十二人である。又死亡者を舉げると男一千三百六十四名、女百七十二名で、人口一千一人に對する比例は、男二十七名と三〇八、女二十二名、二九七になる。出産數は男二千百九十人、女二千九十八人、人口一千人の比例は、男四十五人、女四十三人、六三七、死産は男百三十四人、女百三十一人、之の出産百人に對する率は、男六人、一九、女六人、二三二を示してゐる。

### 醫療

小樽区の病院は二十六箇所あつて大正六年度の收容患者数は四千八百八十五名で、外來患者は五萬五千二百二十八名、醫師の数は九十六名で、人口一萬に對する率は九人七九三、藥劑師は十九名で、人口一萬に對する率は一人九三八、産婆は九十五名で、人口一萬に對する六十は九人六九一を示してゐる。

區立病院の設立は永年の懸案になつてゐるが、未だに其實現を見ぬのは區民の遺憾とする處である。重なる病院を擧ぐれば左の通りだ。  
 小樽病院(量徳町)大正元年十月の設立で、設備の完全せるは小樽第一である。▼愛生病院(色内町)▼植田病院(稻穂町)▼望月病院(色内町)▼岡

- 本婦人科病院(稻穂町)▼三谷病院(同)▼田中外科病院(同)▼小樽小兒科病院(同)▼小樽産科婦人科病院(花園町)▼小野病院(同)▲赤木病院(相生町)▼大正病院(色内町)▼小樽耳鼻咽喉科病院(稻穂町)▼毛利肛門病院(同)▼小笠原小兒科病院(同)▼伊東醫院(量徳町)▼明治眼科病院(稻穂町)▼北洋眼科病院(色内町)▼小松眼科病院(山田町)▼島田齒科醫院(稻穂町)▼小堀齒科醫院(稻穂町)▼荒井齒科醫院(同)▼小貫齒科醫院(花園町)▼河邨病院(入舟町)▼吉川醫院(錦町)▼東洋整骨病院(色内町)

### 慈善事業

社団法人小樽慈惠病院 (住ノ江町)明治二十五年區の醫師と僧侶の

有志が、窮民又は行旅病人に對する施藥救療の主旨で、共立小樽施療所を創設し、翌三十六年一般篤志家の賛助を得て、事業を擴張し、小樽施療院と改稱した。三十八年小樽區役所から行旅病人の救護及び精神病者の監置取扱の囑托を受け、同年院舎を新設して設備に改善を施した。三十九年四月社団法人設立の許可を得、四十三年本院を擴張する必要を認め、社団法人小樽慈惠病院と改稱し、本館を再び新築した。院舎建物坪數は五百二十坪で、入院施療患者の外、外來患者が多數に上りつつある。

社団法人小樽育成院

奥澤町にあり、明治三十一年青森縣人中島武

兵氏の創立に係り、三十六年舊院舎を改築し、小樽孤兒院と稱し、孤兒兼兒貧兒の教育に努めた。其後幾多の困難を凌ぎ、四十三年十一月財團法人となり、同十二月小樽育成院と改稱した。現在院舎敷地は一千坪、建坪は三百三十六坪で、職員は院長の外、總て十名、現在百名餘の兒童を收容してゐる。明治四十四年八月東宮殿下行啓の際、御名代差遣の榮を擔ふた。

神社佛閣

縣社住吉神社

量徳町船の上山に在り、貞享の昔山の上町に殿島神

社と稱されてゐたが、後文久年間に合祀して墨の江神社となり、更に明治二十五年社名を現今のやうに改めた、祭神は底筒男神、表筒男神、中筒男神、息長帶神、大物主神、保食神、八重言代主神の合祀である、現殿堂は明治十四年の新築で、境内地積八千餘坪、社殿百二十七坪、本道屈指の神社で、毎年七月十四、十五、十六の三日間大祭を行ふ。

**龍宮神社** 稲穂町第三火防線上にあり、祭神は底津和田都美神、中津和都美神、工津和田都美神、配神は豊受姫命、大物主命、大毘古神、桓

武天皇である。  
**天満宮** 奥澤天神町にあり、祭神は菅原道真公で、慶應三年の勸請

に係る。  
**水天宮** 水天宮山上に在り、安政六年の勸請で、祭神は彌津波能賣

神、港灣と市街を眺望し風景佳絶。

**稻荷神社** 手宮町に在り、享保元年の創建で、祭神は保食神。

**本派本願寺小樽別院** 安政四年四月の建立で、開基は本山第二十世

廣如上人、元休泊所と稱し更に願乗寺と改まり、明治十年別院となつた、大正二年改築して大伽藍となる。

**量徳寺** 眞宗大谷派の巨刹で、安政六年徳善和尚の開基、元有観山

に小樽御坊と稱してゐたが、明治三年大谷光瑩法主巡錫の際、量徳寺の

稱號を附され六年に現在の入舟町に移つた。

龍徳寺 新富町に在り、区内の名刹て安政六年十月曹洞宗函館高

龍寺十八世大尖海雲師の勸請に係る。

正法寺 緑町に在り、慶應三年山形光禪寺、穎山和尚の建立に係る、

曹洞宗の巨刹。

増上寺小樽別院 明治十三年開運町に建立された浄土宗天上寺と

稱して入舟町に移り、更に瓦斯會社附近の奥に移つた。

精周寺 明治二十二年四月現住職中川慈恵師が沙見臺町に建立

し、更に四十二年天狗山麓最上町に改築移轉した、新義真言宗豊山派。

淨應寺 石山の切通しに在り、真宗大谷派で、寛永七年福山専念寺

五世玄珠師の開基。

妙國寺(入舟町)日蓮宗▼直行寺(緑町)浄土宗▼妙龍寺(富岡町)日蓮宗▲

淺草觀音寺(富岡町)天台宗▼無量壽寺(稻穂町)浄土宗▼淨曉寺(住の江

町)真宗高田派▼宗圓寺(沙見臺町)曹洞宗▼光明院(稻穂町)天台宗▼日

光院(古義真言高野派)▼専名寺(奥澤町)真宗三門徒派▼無漏山不動

院(古義真言高野派)其他各宗派の説教所が數箇所あつて、僧侶の數は

全部で七十九名。

五百羅漢堂 沙見臺町に在り、福山羅漢堂宗圓寺を移したので、文政八



年松前城主十四代章廣公か、南部盛岡から十大弟子十六羅漢五百羅漢像を勸請し、福山の名利としてあつたが、同町の衰微と共に同山全部を現在の地に移し、一は日露戦役の忠魂を弔ひ、一は本道統治の偉績者たる松前家を記念せんが爲に移すに至つたのである。寺は高丘にあつて全市街と港灣を展望し、風光雄大である。

### 各種の教會

基督教會は九箇所あつて、信徒は計九百十九人、布教者は内國人六名、外國人三名である。教會名は左の通りだ。

天主教會(量徳町)▼基督正教會(稻穂町)▼小樽教會(稻穂町)▼日本美以教會(稻穂町)▼小樽聖公會(東雲町)▼組合基督教會(花園町)▼福音傳道館(稻穂町)▼救世軍小樽小隊(花園町)▲ハリストス教會(緑町)  
 其他天理教、黒住教會等がある。

### 遊覽地

小樽の遊覽地として擧ぐべきものは、公園地、赤岩の奇勝、水源地、手宮の古代文字等多々あるが、風景として、明治十三年三條實美公の選んだ

のによると住吉の秋月、祝津の夜雨、色内の晴嵐、濱中の夕照、朝里の落雁、石狩の歸帆、龍徳の晚鐘、増毛の暮雲を小樽八景としてある、其後赤岩の游鷗、高島の漁歌、花園の嬉春、波堤の晴帆、宮阜の涼月、勝川の驟雨、龍徳の清楚、月陵の吟蟲、羅溪の霜葉、天宮の奇跡、神威の驚濤、狗嶽の晴雪等十二勝を選んだ者があるが、是等の中には強いてコヂツケたのも無いではない、以下重なる遊覽地を記さう。

手宮の古代文字

本邦稀有の所謂アイヌ古代文字は、鐵道院手宮工場裏手から、高島村に通ずる斷崖の岩壁にある、高さ約一間半、幅約二間半の岩壁に四十有餘の奇なる記號が彫刻されてある、從來考古學者

が熱心に研究したけれども、一人として何の記號であるかを判断した者はなかつた、或る者はアイヌの文學なりと言ひ、或る者は支那古代の文字なりと言ひ、或る者は石器時代の墓標であらうと言ひ、學說區々として定まる處がなかつた。

然るに大正七年二月十五日に、廣島高等師範學校の教授文學士中目覺氏が蒙古に於ける古代土耳其文碑銘「ラドロフ」著に就て種々研究を重ねた結果、此の奇なる石文の謎を解いた、夫れに依ると太古肅慎の移民が積丹半島から全市に上流して、肥沃なる余市川や尻別川の流域に住居を求めた處が阿倍比羅夫三度目の北征の際端なくも是等の民と

戈を交ゆるやうになつて、到頭五十有餘名の肅慎民は俘虜として京都へ送られた。戦終つて比羅夫は始めて敵意のない善良な移民團と戦つたことが判つたので、戦死した移民團長格の二老翁を厚く葬ることとを許した。そこで遺族は二人の遺骸を舟に載せて、當時大陸交通の要衝であつた手宮へ送り、横穴に葬つた。そして墓誌として

我は部下を率ゐる大海を渡り 闘ひ 此洞穴に入つた

と岩壁に深く刻んだ。時は實に齋明天皇の六年、神武紀元千三百二十年（西暦六百六十年）で、大正七年を去る千二百五十八年の昔である。と述べ最後に嗚呼肅慎の老翁よ、よし汝が移民計畫は失敗に終つたにせよ、

優秀民族の國に植民するのは不可能事であることを思ひ恨む勿れ、老翁よ、汝の祖國は影も形もなく消え失せ其歴史だに朦朧たるの時に當り、汝の記事は世界の大帝國の記録に残り、又汝が墓誌も讀破せられたことを喜べ。老翁よ、以て冥すべし、エンデリの神は永へに汝の靈を護るであらうと結んでゐる。

要するに氏は、手宮洞穴の彫刻は古代土耳其文字で書いた鞅鞅語の文章であるといふのだ。尙文字の右端にある模様は蒙古風の甲冑を着けた武人の姿を現はしたもので、右の腕の下部と草摺の一部分だけが残つて居る。之は引率者の像を彫刻したものであらうといふことだ。

斯くて永年不可解の石文は、氏に依つて解かれた。此の發見が學界に多大の貢獻をしたのは言ふまでもない。

### 花園公園

花園町の後方一帯の丘上で、廣さ約十萬坪を有してゐる。明治三十五年から設備に着手したので、幽邃の趣きに乏しいけれども、園の正門から左に登つて、日露戦捷記念碑の邊りには、多くの梅櫻が植えてあつて、陽春五月の交には紅雲を棚曳かせる。右に折れて行けば、純日本式の公會堂がある。是は明治四十四年八月、今上陛下尙ほ東宮に在しまして、當區へ行啓の折御旅館に充てたる建物で、區の富豪藤山要吉氏が工費二萬六千圓を投じて建築したのだ。坪數二百六十八坪優に

一千人を收容するに足る。毎年行啓の當日には記念の爲に公開して參觀せしめる。背面には常盤の色鮮かな御手植の松がある。更に進めばグラウンドに達する。毎春五月の上旬から晩秋にかけて、學校其他の團體運動が絶えず催される。就中區内各小學校聯合大運動會は、運動會中の花とも稱せらるゝもので、約一萬二千の兒童が技を競ふ。光景は百花一時に咲くの觀がある。是より左折して頂上に到れば、東宮殿下の御野立所に達する。眸を放てば、手宮高架棧橋より色内稻穂花園の市街から、南方舊小樽方面の街衢皆指呼の間にありて、近く港灣の風光を眺め、對岸の天鹽石狩の連山を望むことが出来る。又背後には天狗山から奥澤の

山々を展望し得る、會議所裏には皇太子殿下御慶記念碑がある。

水天宮山

既に見物の道しるべの項の處で述べてあるが、頂上に佇めば小樽の全景双眸に萃り夏時は納涼の絶好臺である。

手宮公園

手宮工場の後方海拔二百尺の高丘で園中老樹繁りて畫尙靜かである、一角に立てば小樽市街と港灣を展望し得る。

水源地

奥澤町の入口から一直線に約半里を行かば達する、既に上水道の項で水道の説明を述べたから茲には再び記さぬが附近は所謂俗塵を離れた別天地で水清く山秀てゝゐるので、春から秋へ掛けて遊山に行く男女が大勢ある、殊に晩秋の頃には此附近一帯の山野が

黄紅の錦で彩られる。

穴瀧

水源地から更に三十町奥に進むと俗稱百萬坪山道の入口に達する、其處から右の細逕を下り溪底を縫ひ行くと間もなく鞆の音を耳にする、瀑布は左の絶崖に直下し、豁然たる一大洞窟の前面を掠めて飛下してゐる、高さ丈餘に過ぎないが、奇怪なる洞窟を背景とくしてゐるので探勝家の好奇心を唆る。附近に白糸の瀧の外水源地近くに雨乞ひの瀑がある。

天狗山

小樽區中の最高峰たる天狗山は區の西方に聳えてゐる、海拔一千五百七十尺で、山頂には灌木のみで大樹の目を遮るものが

ないから、恣に展望し得る、全市街、港灣、水源地等を下瞰し得るばかり  
 てはなく、忍路、高島の近村から、余市、古平、積丹等を望んで、雄大の風光は、  
 人をして恍惚たらしむる、登山道は最上町の精周寺前から松林を抜け  
 て行かば容易に達することが出来る。

**赤岩**

祝津の沿岸、高島岬に沿へる断崖一帯の名稱で、本道屈指の奇勝である、左に、ルーラン「熊の嘯」等の著者として知られたる河合  
 裸石氏の赤岩行の記事を抜録して紹介に代へる。

(前略) 本田澤から祝津、高島の道分の茶屋で車を下り、翠綠豊かな蝦夷松の  
 林に、油を煮るやうな蟬時雨を浴びて、爪先上りの道を辿り行く、清々しい翠

嵐が林を襲して来ては、顔を撫でて吹き去る。忽ち潤然たる赤岩の海が眼下  
 に展開した、濱へは下りずに右の危徑に沿ふて絶壁の直上を縫ひ行けば、結  
 色の奇巖、怪石が宛も劍戟を列ねたやうに絶壁の中腹から、蒼空を刺してゐ  
 る、或るは形家の如く中央に窓を穿てるもの、或るは蹠獸の如きもの、或るは  
 巉巖肩を聳えて其高さを争ふてゐるもの、一として奇怪ならざるはなく大  
 自然の技巧には、到底小さな人智など及ぶべくもない。日字形に道を下ると  
 方二坪餘の眞ツ平な巨岩が、恰も露臺のやうに突出てゐる、其上に肘を枕と  
 して横はれば、渺茫たる海原は雲もない蒼空の影を涵して、風渡る毎に、縮緬  
 織を寄せてゐる、左の方、忍路、余市、美園、積丹かけての長汀、曲浦に、出っ入りつ  
 する款帆、仄帆の影もおもしろく、白い波を湧きたゞせて進み、航く、磯動、機船

の姿もいゝ、強烈な日光は澄明な空気の中に漂へて、天地の物音が極めて鮮かだ、雄冬の高嶺からは冷や／＼する風が上衣をパツパと捲くつて、股を抜けては吹く。(中略)

直立の絶壁を一條の銅線に身を托して約十間程下ると、危道は忽ち薄暗い洞門の中に消えてゐる、身を縮めて、黄昏の世界に吸はれ行くと、赤く錆た鐵鎖が蛇のやうに絶壁に匍匐してゐる、什麼やら一歩づゝ魔の國へ進みつゝあるやうだ、仰ぐと磊々たる岩石が、今にも崩れて來るかと思はしく感ずる。唯見る絶壁の中腹に穿たれた洞窟がある、間口一間、高さ五尺許りで、窟は左右に長く、濃陰の氣が充ち溢れてゐる(中略)岩壁を熱視すると佛魔の姿が現はれ、再視すれば眼々として身に迫るやうに感ずる、岩の隙文には岩燕の糞

かと疑ふばかりの無数の紙鱗が結ばれてゐる、中には「何卒／＼叶はせたまへ、お禮まゐりは二人連れ」といふやうなロマンスの匂ひのあるものも多からう、天井の岩角を仰ぐと、物凄いな呪ひの釘か打ち込んである、盡すら寂しい此怪境に、深更白衣を纏ひ、頭に燭を點じて、恐るべき心顔を岩に打ち込みしは、人か魔か辨た鬼乎。(下略)

此外住吉神社(前出)龍徳寺(櫻の名所、前出)五百羅漢堂(前出)等は杖を曳く人々が多い。尙近郊の遊覽地は左の如くである。

**高島** 鍊漁場として名高く、水産試験場(前出)がある、隣接せる

祝津には燈臺の設けがある。

**蘭島** 中央小樽驛から九哩、風光明媚の砂濱で、夏は海水浴客

を群がらし、冬は此驛から西へ二里半を距つた毛無山にスキ一の滑走を試みる者が多い。

忍路

追分節に名高い忍路は、蘭島から十餘町の距離にあつて、練漁場として知られてゐる。村には札幌農科大學附屬臨海實習所がある。

忍路環状石籬

忍路郡忍路村字土場にある、今左に河合裸石氏の紀行文の中から此石籬に關するものを抜いて説明に代へる。

(上略) 現今ストーンヘンヂとか、ストーンサークルとかと呼ばれて、考古學者に珍重されてゐるのは、英國デウキセス、ウキルトシヤの近傍なるエーブメリ

に在るのや、又はサリスベリ平原に散在してゐるのなどは、世界に有名なものと聽いてゐる(中略) 忍路の環状石籬へ行くには、蘭島から左に日本海の波瀾を眺めながら、小樽道路を東へ約十六町を進むと、追分節に名高い忍路道路の傍に、石籬が突立つてゐる。左折して、林檎畑の細道を抜けると、傾斜地に出る。其處が即ち石籬の所在地である。石籬の北方には、緑濃やかな落葉松の小山があつて、山麓は一面の熊笹だ。石籬は其麓の中にある。唯見る高さ三尺乃至五尺位の長方形をなした黒い安山岩が、楕圓形を描いて、恰も小熊が突立つてゐるかのやうに、笹の間から頭を見せてゐる。巨岩の下には、人頭大の石が無數に敷かれてあつて、岩の顛倒するのを支へてゐる。そして幾百千年の久しい間、雨に打たれ風に曝された岩は、個々に青苔の衣や藓の被布を纏ふてゐる。けれども久しい年月の間には、附近の人々や庭師等が、岩を



倒したり、他へ運むたりしたので、今では原形の大部分が破壊されて居る。楕圓の長徑は十五間半、短徑十一間半で、其中心とも思はれる箇所に、徑一尺許りの圓柱形をなした岩石が何等かの標杭のやうに突立つてゐる。一體石籠は何に使用されたものかは、今尙ほ考古學者の研究中に屬して居るが、從來の説に依れば、青銅器時代に造られたもので、石籠の附近には墳墓の跡あるを例とする點から考へても、堂宇の遺蹟か、或は太陽崇拜から日輪に模して造られたものであらう等と言はれてゐる(下略)

### 神居古潭

張碓、錢函兩驛の間にあり、車窓から前面の絶壁を望め

ば神聖鬼斧の妙を盡して、今にも崩れ墮つるかと思はれる。

### 錢函

中央小樽驛から十哩の地點にある漁村で、海水浴場が

北海道 特産 桧、柳、樺、下駄材問屋

小樽區入舟町貳丁目五十三番地



## 村林巳之助商店

電話 長五百二十五番  
 振替貯金口座小樽十三番  
 全東京五千四十三番

吳服半襟各種

(營業品目)  
縮緬半襟  
帶上地  
下地  
頭巾  
帛地  
男女袖地  
兵兒帶各種  
其他男女附屬品各種  
新柄取揃居候精々御用命の程願上候

小樽區入舟町壹丁目

尾本秀太郎商店

小樽出張店

電話(ヲ)又ハ(ヲモト)  
振替口座小樽三八四二番

吳服木綿  
洋反物

卸商 神野會社 小樽支店

小樽區住初町壹丁目廿七番地

電話長五番  
振替口座小樽五十九番

銅鐵諸機械  
船具問屋



小樽銅鐵船具合資會社

小樽區色内町六丁目一番地  
電話 貳百五拾壹番  
電話 四百八拾八番

ある右方は石狩灣に續き左方は弧を描いて確張に連り、近く高島岬を望み風光描くが如した。

輕川 錢函の次驛附近は農耕盛んで、前田農場北海道造林會社、日本石油會社等がある、驛を距る十八町、手稻山の半腹に冷礦泉を湧出する、旅館光風館がある、附近一帶はリリーの採取地として名高い、此驛から四里にして鮭漁に知られた石狩町に達する。

### 劇場と寄席

劇場と寄席は一盛一衰して、元の末廣座や住吉座、花園座、稻穂座等は

劇場と寄席

皆凋落の悲運に陥つて了つた現在では花園町の錦座、稲穂町の中央座が小樽區の二大劇場と稱されてゐる併し活動寫眞の流行に連れて錦座は芝居の興行に重きを置かないで平素は活動寫眞の映寫に力を注いでゐる、常設活動寫眞館は公園館、花園町、電気館、稲穂町、神田館、妙見町、八千代館、花園町、富士館、稲穂町等て孰れも猛烈なる寫眞の競争をしてゐる、寄席は演藝館、花園町、壽館、稲穂町、手宮館、手宮町等ある。

官 公 衙

小樽區役所

(花園町)明治三十二年十月區制を施かれて以來の區長

は金子元三郎、山田吉兵衛、椿葉一郎、龍岡信熊、渡邊兵四郎の五氏で、現區長は永井金次郎氏である、事務は文書衛生、教育庶務、兵事、財務、稅務、收入、水道、土木等の諸係に分掌されてゐる、區政に參與する議員は定數三十名で、一、二、三級各十人、議長は區長、其任に當ることになつてゐる、又區の重要問題を取扱ふ常設委員は十名、學務委員は九名の定員である、各議員の政黨は革新俱樂部(憲政派)、公正會(政友系)の二派に分れてゐて、政争絶え間なく、議員選舉の如きは全國有數の劇甚地と目されてゐる。

小樽郵便局

(色内町)明治四十一年十二月に竣工、移轉せる石造の大

建築である、本局の外區内には花園、綠、稲穂、西、稲穂、北、若松、入舟、若竹、手宮

小樽案内

港の三等局と朝里、高島、祝津の三箇所である。又ポストは百十個を有し、切手賣捌所は九十六個所に達してゐる。今大正六年度中の本局及区内各局の取扱つた郵便電信の統計を示せば

種別	取扱總數	同上中区内各局の取扱に係るもの
通常郵便引受	一一、〇三三、九二四	九九、一五四
同配達	九、二九五、八一	六九八
小包郵便引受	一九六、六七六	一一六、七五三
同配達	一八二、一〇四	九、五七四
電信	九〇七、八九〇	二七五、九八三
電報	三、三九四	
同信	八一七、七五五	一〇、九九七
着信	三、四〇四	
外国		

にて人口十人當りの差出數は通常郵便は一千五千箇、小包郵便は十九箇、電報は八十六通の割合で、實に其通信力の偉大なるは驚くの外ない。

小樽電話交換局

(色内町)郵便局と隣接して建てられてある。大正六年度の電話開通數は百三十九名で、現在の加入總數は二千七十五名である。一日中總呼數の多きは五萬六百七十八度に達し、市外の通話は一、日約一千通話で重なる通話地は札幌を第一とし、次は函館、俱知安、旭川、余市、岩内、古平、瀧川、江別、砂川等である。

爲替貯金支局

(色内町)第一火防線日本銀行支店下隣に新築移轉せる。本局は大正五年八月札幌區と激烈の競争を經て設置されたので、本

道全體と樺太とを管轄してゐる。大正六年末の統計に依れば振替貯金の加入者は四千口に達し、毎月増加の率を高めつゝある。

**小樽警察署** (富岡町) 明治十五年警察分署を小樽警察署と改め、量徳町にあつた廳舎を廢し、四十二年十一月現廳舎に移轉した。現在區内の

派出所は九ヶ所、請願巡査出張所三ヶ所ある。

**小樽水上警察署** (南濱町) 明治二十七年小樽署に屬してゐたが、四十

年獨立して今日に至つた。

**小樽區裁判所** (緑町)

**札幌地方裁判所小樽支部** (同)

**札幌監獄署小樽分署** (裁判所構内) 區裁判所は明治十八年十二月第

一火防線日本銀行支店所在地に設立され、四十年八月現在の地へ移轉した。支部は同四十一年七月創置され、大正七年一月からは、地方廷にて取扱ふ事件の範圍を擴張した。

**小樽稅務署** (色内町) 明治三十年花園町に設置され、次て四十一年現在地の地へ移轉した。

**函館稅關小樽支署** (南濱町海關所船改所などと稱してゐたが、明治十一年六月函館稅關設置と共に支署を置くことゝなつた。

北海道遞信局海軍部小樽出張所

(色内町)明治二十一年九月創設。

小樽築港事務所

(若竹町)明治三十年手宮町に開設されたが第一防

波堤の竣工と共に四十一年四月移轉し第二防波堤工事の事務を取扱つてゐる。

札幌營林区署小樽分署

(長橋町)

函館專賣支局小樽出張所

(南濱町)

帝國水難救濟會小樽救難所 (南濱町)水上署内小樽救難所は明治二十四年四月の開所に係り、三十二年税關支署側に救難船置場を設置し

所長を水上署長に囑托することとした、爾來救助成績頗る良好である。

小樽商業會議所

(稻穂町)明治三十年四月開所式を擧げ、爾來法律の

改定會議所の組織、役員の變動等を経て今日に至つた、現會頭は山本厚三氏。

北海道水産試験所

(高島村)明治三十四年十二月の創設で、事業を開

始したのは、三十五年三月である、四十二年三月國庫支辨となつて現今の名に改めた、本所の管轄は千歳支場、西別支場、室蘭、釧路、稚内の三駐在所をも含み、本道水産業の改良發達を圖り、特に鍊の利用に重きを置き、鹽蔵、燻製、罐詰の製造、其他水産物の試験、調査、漁業、漁船、漁具の試験、改良、

魚類の養殖傳習生の養生等に重きを置いてゐる。又明治四十四年五月汽船探海丸(七十一噸)を建造し、英國式鍊流網を使用して、鍊の習性分布等を調査しつゝある。

小樽圖書館

(區役所内)近く新築移轉すべき圖書館は、大正六年八月

開館以來同年十二月末に於ける閱覽者は、一日平均十六名で其大部分は學生である。現在の類書は和漢書三千四百八十八冊、洋書百四十七冊、兒童用三百六十三冊、寄贈書八百七十九冊を有してゐる。

學 校

小樽高等商業學校

(綠町)本校は明治四十四年に創立されたので小

樽區は敷地と創立費二十萬圓を献納し、同年五月五日開校するに至つた。背後には綠濃やかなる落葉松林を負ひ、小樽區の過半と港灣を双眸に收め、頗る雄大の風光に富んでゐる。現在の校舎は三十棟、千三百九十八坪餘で、校長渡邊龍聖氏以下教官三十一名、生徒三百七十五名を收容し、商業實驗と商品實驗の兩科を必須科としてあるのは、他校に誇るべき特色である。附屬圖書館の設備又見るべきものがある。明治四十四年



八月二十四日、今上陛下未だ東宮に在して當區行啓の際、台臨の榮を蒙る。

公立小樽中學校

(潮見臺町)明治三十五年三月の創立、現在の生徒數約四百二十名、現校舎は明治三十六年八月の落成、敷地一萬一千二百九十二坪を有してゐる、明治四十四年八月、東宮殿下台臨の榮を負ふ。

公立水産學校

(若竹町)明治三十八年の設立、最初札幌に在つたが三十九年現在の地に移轉したのだ、現在生徒數約百名、明治四十四年八月、東宮殿下行啓の際、侍從差遣の榮を擔ふ。

公立小樽商業學校

(綠町)大正二年四月の開校、高等商業學校の下

隣に位置し、眺望雄大である、近年入學志願者著しく増加し、殆んど收容しきれぬ程である、大正七年三月第一回の卒業生を出した、生徒數約三百五十名。

公立小樽高等女學校

(花園町)明治三十九年の設立、大正三年からは從來の補習科に家政科を設けた、附屬に花園文庫がある。生徒數約三百八十名。

私立北海商業學校

(綠町)明治三十五年四月の開校、前經營者日下龍夫の去つてからは、着々諸般の改善を圖つてゐる。生徒數約二百五十名。

私立北門實修商科學校

(手宮町)小樽區最古の私立學校で、最初學館

と高島小學校及び幼稚園に分れてゐたが、四十四年の火災以來縮少し専ら商科學校の方に重きを置き苦學生を教養してゐる。生徒數約五十名。

小樽實踐女學校

(量徳町)故河野正治氏の經營の下に、明治四十年九

月の創立、普通、専修、速成、補習の四科と幼稚園を設けてある。校舎は舊支應と警察廳舎にて小樽西洋館の嚆矢と稱されてゐる。生徒數約百三十名。

私立小樽女子職業學校

(緑町)明治四十四年三月の創立で、元小樽裁

縫女學校と稱し、實科高女程度の科目を教授してゐる。生徒數約百五十名。

財団法人小樽盲啞學校

(奥澤町)故小林運平氏が萬難を嘗めて設立

したのは明治三十八年十月で、當時は盲啞私塾と稱してゐたが、翌三十九年三月篤志家の贊助を得て住の江町に校舎を新築し、小樽盲啞學校と改稱し更に生徒數の増加に伴ひ四十四年七月現在の地に千有餘坪の地積に百六十二坪の校舎を新築して移轉した。教授は普通科と技藝科の二部に分れ、盲生には按摩、鍼治、音楽を啞生には繪畫、裁縫、手工、提灯、木履、製靴を教へてゐる。明治四十四年、東宮殿下行啓の際、侍從差遣の榮

を蒙つた。

各小學校

小樽區の膨脹は逐年其度を増すと共に、就學兒童益々増加して、現今は總數一萬二千三百餘名に達し、各校とも狹隘を感じつゝ、ある、校名を擧ぐれば左の如し。

量徳尋常高等小學校(量徳町)量徳女子尋常高等小學校(同)稻穂尋常高等小學校(富岡町)稻穂女子尋常高等小學校(同町)堺尋常高等小學校(堺町)色内尋常高等小學校(石山町)花園尋常高等小學校(花園町)手宮西尋常小學校(同)潮見臺尋常小學校(潮見臺町)奥澤尋常小學校(奥澤町)

量徳商業補習學校

(量徳小學校内)

稻穂商業補習學校

(稻穂小學校内)

金融機關

小樽區金融機關の設備は日本銀行支店の外重なる銀行が十四あつて、毫も遺憾を感じない。是等の銀行は預金と貸附の外確實なる華客先や商品に對して放資をしてゐる。尙大正二年五月から開始した小樽組合銀行手形交換所は交換の成績頗る良好で不渡處分は極めて少ない。銀行の所在地其他を左に掲ぐ。

日本銀行小樽支店

色内町第一火防線に在つて資本金六千萬圓

東京以北第一の建築と稱せられてゐる、明治四十二年七月に起工し、四十五年七月竣工した、総工費三十餘萬圓。

**株式會社北海道銀行**

小樽郵便局の後方に位置し宏壯なる石造の建築である、本行は明治二十七年三月の創立で、余市銀行と稱してゐたが三十年に資本金を増加して小樽銀行と改め、三十九年北海道商業銀行と合併し、北海道銀行と改めた、現在の資本金百五十萬圓。

**株式會社第一銀行**

色内町の中央に在り、本行は元第一國立銀行と稱し、明治六年に創立され、大正元年九月株式會社二十銀行と併合して現在の地に支店を設けた、資本金二千五百五十萬圓。

**株式會社三井銀行支店**

色内町に在り、三井家が本道の事業に關係したのは今から約五十年前で、我小樽に支店を設立せしは明治十三年四月である、資本金二千萬圓。

**北海道拓殖銀行支店**

色内町に在り、本行は本道の開發産業振興の目的で特設され、政府は株金百萬圓を引受け、監督機關を設けて隨時監督監査をなさしめてゐる、小樽に支店を設けたのは明治三十四年十一月である、資本金五百萬圓。

**株式會社百十三銀行支店**

色内町に在り、明治二十六年五月支店を設置し、函館貯蓄銀行の代理店を兼ねてゐる、資本金百萬圓。

株式会社十二銀行支店

色内町に在り本店は富山市で明治十年の創立である小樽に支店を設けたのは明治卅年七月資本金三百萬圓。

株式会社中立銀行

色内町に在り明治三十四年中鱗向井嘉兵衛氏經營の下に設立されたのだ資本金二十萬圓。

株式会社日本商業銀行支店

色内町に在り明治二十九年六月支店を設けた資本金二百萬圓。

株式会社函館銀行支店

色内町に在り本行は明治二十九年八月の創立で小樽支店の開業は明治四十年九月資本金百萬圓。

株式会社中越銀行支店

港町に在り明治四十五年七月現在の地

に支店を設けた資本金二百萬圓。

株式会社拓殖貯金銀行支店

稻穂町に在り本行は明治二十九年三月札幌に創設され三十九年一月小樽に支店を設けた資本金二十七萬圓。

株式会社不動貯金銀行支店

第一火防線に在り三年貯金五年貯金定期預金等を専門としてゐる大正元年九月小樽に代理店を設置し次いで支店となつた資本金十萬圓。

株式会社第四十七銀行支店

色内町に在り明治四十年四月の設置て本店は富山市資本金百二十萬圓。

### 株式會社共榮貯金銀行支店

花園町に在り、据置貯金を主として

ゐる、資本金百萬圓。

以上の銀行の外に、金貸業を営むものが六十名程あつて、金融の裡面に於て一大勢力を有してゐる。是等の營業者は、危険の多い漁業資本などは、銀行が貸出しを好まぬから、其弱點に乗じて高利を得やうとしてゐるのである。此他日常生活の金融機關として、質屋營業者が約五十名ある。

### 各種の保險會社

現在小樽の内外各種保險會社本支店及び出張所の數は、生命保險十六箇所、海上保險八箇所、火災保險十箇所、重なる火災保險會社は、日本東京、明治、共同、神戸、リパプール、小樽貨物等であつて、孰れも相當の成績を擧げてゐる。

### 海陸運輸

小樽港の海陸運輸の狀況は、本道内部の開発と相俟つて、逐年貨物の吞吐數を増加しつつある。今海運に依る仕向地を擧げると、後志、天鹽、北見の沿岸各地は言ふ迄もなく、内地は青森、鹽釜、東京、横濱、名古屋、四日市

大阪神戸尾ノ道門司下の關敦賀三國七尾伏木水橋滑川佐波直江津新  
 潟酒田土崎の諸港である定期航路は小樽と神戸を基點とせる郵船會  
 社の東廻航路其他社外船の航路は毎日の如く出入してゐる。  
 日本海航路は小樽から神戸大阪馬關迄の線伏木敦賀又は酒田新潟  
 土崎の線とに分れてゐる此外上海天津漢口營口大連等の南北清の航  
 路と浦鹽東察加其他露領沿海州の航路獨英佛白等の歐洲航路米國又  
 は濠洲南洋諸島の航路がある小樽港を起點とする浦鹽航路は遞信省  
 の命令航路で大阪商船會社が之れに従事してゐる又郵船會社の小樽  
 を起點とする本航路は小樽網走間小樽稚内間であつて北海道廳の補

助航路は藤山汽船部に於て小樽函館青森間及び小樽天鹽間を運航し  
 てゐる樺太航路は遞信省の命令による郵船會社の外北日本汽船會社  
 が従事してゐる今最近に於ける一ケ年の出入船舶の隻數を擧ぐれば  
 入港汽船は三千五百四十五隻三百八十四萬四千八百五十五噸帆船は  
 二百六十隻二萬七千八百八十噸又出港は汽船三千五百三十五隻三百  
 八十五萬六千七百五十噸帆船は二百七十隻二萬七千九百七十一噸を  
 示し輸出金額は一千百二十三萬六千九百八十八圓(大正四年)移出は内  
 地三千百三十九萬四千四百九十八圓(大正四年)同本道及び樺太二千二  
 百七十一萬一千五百四十三圓で輸入は二十萬四千九百二十七圓移入

は内地三千八百三十九萬六千四百九十四圓、本道及び樺太七百八十六萬五千四百四十五圓に達してゐる。

更に陸運の状況は年々本道内地の開拓に連れて、集散の貨物益々増加しつゝある。

### 營業倉庫

小樽の營業倉庫は明治二十四年頃から逐年隆盛に赴いて、四十二年には個人倉庫を合して百九十八棟を算し、漸次規模の大なるものが建設されるやうになつた、現在の倉庫は百七十六棟で重なるものは小樽

倉庫株式會社、共同株式會社、福町倉庫株式會社、支店等である。

### 外國貿易

本道四大港灣たる小樽、函館、室蘭、釧路の内對外貿易の著しく進歩しつゝあるのは、我が小樽と釧路の兩港で、輸出が其大部分を占め輸入に至つては横濱を経由してゐる。輸出の重要品は木材を第一とし、豌豆、隠元、澱粉、燕麥、林檎、玉葱等が是に次いでゐる。而して輸出額の増加は支那に次いでゐる。米、露、白、濠洲、英、佛、印度等、枕木、角材、製材、豌豆、丸太、硫黃、昆布等逐年増加し、從來函館から輸出された硫黃の如きは、大正二年よ



り小樽港からも輸出されやうになつた將來港灣の設備完成と共に益々發展するは疑ふべからざることである。

### 工業界

小樽に於ける工業の筆頭は精米業で蒸気力と電力を使用し、一ヶ年の米額二十萬七千二百餘石に達し、共成株式會社が最も大規模である次は醸造業清酒醬油とも年額一萬五六千石を示してゐる製材業は三井物産を第一位とし其外五箇所の工場がある。以上に次いで種油製油鐵工製紙石鹼硝子燐寸等であるが近年著しく發達を示しつゝ、

あるは造船業で、大正六年の如きは五百噸型の汽船が數隻建造された、又澱粉再製工場は頗る其數を増加した其他小樽電氣會社、北海道瓦斯會社があつて、燈用の外各種工業の發達を助成してゐる。重なる工場を擧ぐれば左の如くである。

- 鐵道院附屬手宮工場(手宮) ▼北海道瓦斯株式會社小樽營業所(入舟町) ▼共成株式會社(有幌) ▼小樽製油株式會社(眞榮) ▼帝國電氣株式會社支店(入舟) ▲北海道製米株式會社(入舟町) ▼高岡打綿會社小樽出張所(相生) ▼北海道製油株式會社(入舟) ▼小樽酒造株式會社(奥澤) ▼小樽燒酎株式會社(湖ヶ臺)
- ▼小樽製綿株式會社(奥澤) ▼小樽豆腐製造株式會社(稻穂) ▼清水鐵工所(同) ▼小樽ラムネ株式會社(綠) ▼北海道精麥合資會社(稻穂) ▼手宮製材所(手宮) ▼新富製材所(新富) ▼北海道火山灰合資會社(入舟) ▲岡部製粉合資會社(稻穂) ▼信香製材合名會社(信香) ▼北川合名會社(稻穂) ▼藤山鐵工

所(同)▼板谷商船株式会社(稻穂)▼北海製紙会社 奥澤)

此他小樽區特色の工場としては、豆類の手撰工場であつて、近年豌豆、隠元等の海外輸出が驚くべき程盛んになるに連れて、此種の工場が續々建設されるやうになつた。撰工は婦人に限られてゐて、中流以下の婦女子に有利な内職を興へてゐる。

### 新聞雜誌界

**小樽新聞社** (港町)本道三大新聞の一で、明治二十六年六月札幌に於て發行した北海民燈を改題し、翌二十七年本社を當區に移し今日の

隆盛を見るに到つた。

**小樽毎夕新聞社** (東雲町)明治四十一年の創刊で、政治經濟を主としてゐる。

**北門日報社** (稻穂町)大正六年の創刊で、夕刊新聞である。

**小樽日々新聞社** (花園町)大正六年の創刊、朝刊新聞である。

**小樽商業新報社** (堺町)明治二十七年の創刊、商況物價を報道する

日刊新聞。

此他北海タイムス支社、北海日々新聞支社、北海通信社等がある。雜誌の重なるものは北海の實業、拓殖政壇等がある。又興信所は東京興信

所小樽出張所(色内町)帝國興信所小樽支店(花園町)がある。

### 商工業組合と會社

小樽區の同業組合中最も大なるは北海道雜穀商同業組合聯合會(堺町)で、全道雜穀の検査統一を圖つてゐる、此外北海道木材業組合聯合會と筆頭に左の五十九組合がある。

雜穀海産、果實乾物、果實疏菜、木材、紙、洋服、小間物雜貨、砂糖雜貨、織物、呉服、木綿、銅鐵、銅鐵板細工、鐵工鑄物、陶磁器、塗物、看板、漆工、藥、味噌製造、小樽外十郡醬油、酒問屋、白米、牛乳搾取、豆腐、料理、飲食、菓子、煙草、薪炭、履物、

古物、仲買、農産仲立、倉庫、船主、回漕、船内仲立、海産貿易、和服裁縫、印刷、質屋、旅人宿、雇人口入、石工、菓子職工、荷馬車、人力車、理髮保健、湯屋、履物製造、馬具、藁工品、染物、運送、荷捌、漁網、漁具、漆器、荒物、西洋洗濯、

株式會社小樽米穀取引所(稻穂町)明治二十七年五月の設立で、資本金十萬圓、理事長高橋直治氏 ▼帝國電氣株式會社支店(富岡町) ▼共成株式會社(有幌町)精米業資本金百萬圓 ▲小樽貨物火災保險株式會社(色内町) ▼小樽倉庫株式會社(南濱町) ▼板谷商船株式會社(色内町) ▼文珠炭礦株式會社(稻穂町) ▼小樽製油株式會社(真榮町) ▼北海製油株式會社(入舟町) ▼小樽集鱗株式會社(北濱町) ▼共同倉庫株式會社(若竹町) ▼北海道精米株式會社(入舟町) ▼北海薪炭株式會社(開運町) ▼北海道製

綿株式會社(天神町)▼北海道木材株式會社(若松町)▼株式會社北海屋商店(花園町)清涼飲料水製造▼小樽耐燒株式會社(潮見臺町)▼株式會社小樽競馬會(色内町)▼小樽市場株式會社(稻穂町)▼小樽豆腐製造株式會社(同)▼日本郵船株式會社支店(手宮町)▼三井物産株式會社支店(北濱町)▼三菱合資會社支店(南濱町)▼秋田木材株式會社出張所(花園町)▼内國通運株式會社出張所(手宮町)▼北海道瓦斯株式會社小樽營業所(入舟町)▼函館製網船具株式會社支店(色内町)▼北日本汽船株式會社小樽支店(南濱町)▼仁壽生命保險合資會社出張所▼北海道火山灰合資會社(稻穂町)▼小樽船舶給水合資會社(南濱町)▼小樽海運合資會

社(色内町)▼其他保險代理店、各種の商店、回漕業等の會社名は略す。

廓ものがたり

安政二年頃から勝納や若竹町には多くの濱小屋が軒を列ねて、板子一枚下を地獄の稼業とする船乗を相手に、淪落の女が盛んに風紀を紊してゐたが、明治十三年鐵道の開通するやうになつてからは、入舟町の熊笹敷を開拓して爰に初期の遊廓が設けられ、金曇町へは其分廓とも稱すべき花街が建設されて、絃歌の聲は晝夜絶ゆる間とはなかつた、更に煤田採掘出張所が設置されるに及んでは、人氣全く一變して、料理

屋や待合も出来藝妓も續々入込ひやうになつて、眞に入舟、金曇、信香の三町は間も月夜の至盛を極めた然るに十四年の春呪ひの火は金曇、信香等の花街を焦土と化せしめた、そこで翌十五年に住の江町に遊廓を移すことになつた、管絃の聲は再び此町に湧いて、波に千鳥の長絆纏を着た大和船頭の群が、日に幾百人となく廓に繰り込んで、千兩萬兩の黄金の花を惜し氣もなく撒き散らしてゐた、然るに明治二十九年四月再び廓内から火を失して、百餘戸の青樓を烏有に歸し、歡樂の巷は一夜にして荒涼たる燒野原と化した、此機に乗じて遊廓移轉問題の火の手が高まり、當業者の躍起運動も徒勞に歸して、三十三年六月現今の天狗山

麓に移ることゝなつた、水清き小川を挾んで羽衣、辨天、仲の町等の優しい町名が附けられて、紅樓が櫛比したが、何分道の遠いのと区内私娼跋扈の爲に年々寂れ行くので、當業者は其筋へ向つて目下入舟町の近くへ移轉を請願してゐる、現在十數軒の籠の中、重なるは金盛、鯉川、清明樓等が名高い。現在の娼妓數九十六名。

北廓は明治四十年の春、手宮の奥祝津へ通ふ道路の丘下に設けられた、北の里は地勢の關係から海員、船子が重なる客である、青樓二十餘重なるは旭、いろは、日の出樓等て娼妓數は六十一名。

一方区内の私娼は其筋で銳意撲滅に腐心しつゝあるけれども、狩立

てる後から後からと殖を行くので到底狩盡くすべくもない所謂魔窟と稱せられてゐるのは、稻穂町電気館下、手宮遊廓附近、龍宮殿下等で、就中舊信香裡町の如きは、兩側に怪しげなる飲食店が軒を列ねて毎夜淪落の女が白い顔を闇に浮かせて警官の目を忍んでは素見連に戯れてゐて宛ら昔の濱小屋時代を偲ばせてゐる。

### 藝者の繁昌

金曇町全盛時代に、藝妓待合所といふのが永井町に創設されて曲北見番と稱してゐたのが、小樽區見番の最初である、其後住ノ江町遊廓に

曙見番の創設となり、二十七年には末廣見番、三十年には色内見番、次いで末廣分見番が設置され更に稻穂見番や花園見番等が出来た、大正七年七月末の調べに依ると藝妓の数が五百六十一名に達してゐる、繁昌の中心地は妙見町と花園町にある。最近各見番は合同して株式組織に變更し北斗見番小樽見番中央見番と改稱した。

### 旗亭

開陽亭 山ノ上町の高臺に位置を占めた高樓で、全区と港灣の眺望を恣にし古來小樽の大旗亭として知られてゐる、百三十八疊敷の大

廣間の外、花吹雪羽衣、千鳥花洞、夜櫻、春雨、松風、桃、櫻等の風致ある座敷や、さては夕霞と稱する淺酌低唱の四疊半などを備へ、庖丁の牙えは既に定評がある。

其他區内の重なる料理屋は左の通りだ。

一二三樓(入舟町)▼中島屋(堺町)▼しののめ(東雲町)▼千登勢(色内町)▼高田家(稻穂町)▼四季の家(花園町)▼松の家(堺町)▼迎陽亭(花園)▼竹廻家(同)▼しやも東(稻穂町)▼新喜樂(花園町)▼登喜和(色内町)▼蛇の目(花園町)▼精養軒(色内町西洋料理)▼樓クラブ(花園町)▼機橋ビヤホール(南濱町)

### 旅客と旅館

大正六年度に於る區内四停車場の乗降客は中央小樽驛最も頻繁で、

乗客二十九萬八千九百七十五人、降客二十二萬八千九百四十五人である。次は小樽驛で、乗客は二十三萬四千五百九十九人、降客は二十五萬一千五百九十九人、築港驛は乗客四萬一千三百九十八人、降客三萬一千四百三人、手宮驛は乗客三萬七千九百八十五人、降客三萬四千九百九十二人である。各驛とも乗客に比して降客の少いのは汽船から直ぐ汽車に移乗する者が多い爲だ。一方區内の投宿者は七萬四千八百四十七人で、其中三千三百三十人は、區内や高島、朝里等の漁場に入込んだ人員である。旅館數は八十三軒、下宿屋は百三軒、木賃宿は七十七軒で、重なる旅館は左の如くである。

小樽案内

一一二

越中屋旅館(色内町)小樽第一の高等旅館▼キト谷旅館(色内町)▼つるや長井旅館(中央驛下)▼植木屋  
 (同)▼山久小樽館(同)▼丸正大泉旅館(同)▼山小池野旅館(同)▼九千代内藤旅館▼北辰館(稻穂町)  
 ▼中央館(同)▼東洋館(同)▼曲中中上旅館(堺町)▼小島旅館(永井町)▼長榮館(住の江町)▼角二  
 森川旅館(住初町)▼角キ秋山旅館(同)▼曲ソ能登屋(色内町)▼常盤館(同)▼角十小川旅館(南濱町)  
 ▼博多屋(小樽驛下)▼山千加賀屋(中央驛下)▼北海屋ホテル(同)

視察  
遊覽  
小樽案内

——(終)——

大正七年七月廿五日印刷  
大正七年八月一日發行

定價金 參拾錢  
郵税金 四錢

著者 いろは堂書房

小樽區稻穂町中央通り

清水松太郎

東京市京橋區西船場町二十七番地

佐久間衛治

東京市京橋區西船場町二十七番地

株式會社 秀英會

印刷所

小樽區稻穂町中央通り

いろは堂書店



發行所



(錄目品商)

醬味精白サビ洋白味燒大清  
油噌麥米 | ル酒酒淋耐酒酒

銘酒

巴里  
蝦夷富士

釀造元

小樽稻穂町大通り

精米業  
今岡田販賣部

電話 長一五〇七番  
電話 一六四三番  
振替口座 小樽四九三番

釀造部 奥澤町二丁目十八番地(電話二〇四番)  
精米部 奥澤町二丁目廿四番地(電話九六二番)

石油、器械油、輕油、機發油  
 白絞油、和紙、燐寸、石鹼、  
 蠟燭、菓子類、漬物、雜貨、  
**卸商**

小樽區花園町東四丁目

◎ **杉江仙次郎商店**

電話 參百八拾五番  
 振替小樽四百八拾六番  
**工場**  
 區內綠町四丁目  
 電話 壹貳七壹番

●北海道北部國定教科書特約販賣所  
 ●日本ノート製造會社特約販賣所  
 ●サククラ印文具品發賣元

書籍 文具  
 樂器 運動具  
 紙類 雜貨

**川南近江堂**

小樽區花園町東四丁目參番地  
 電話六六五番 || 振替小樽壹參貳九番

書籍、雜誌、文房具  
繪葉書各種發行  
北海道地圖各種發行



小樽區中央通り(停車場下)  
**いろは堂書店**  
國定教科書販賣所

●其他北海道に關する出版物は種々取揃へ申置候に付御用命奉希上候

小樽區色内町六丁目  
今井合記會社支店



# 今井呉服店

日用の百貨商品取扱居候  
不相變御用命の程希上候

電話 一七・四三五  
九七・九五〇 番  
振替口座小樽二八九番

373  
198

終